

同窓会報

No. 20



豊橋技術科学大学



2003

最近の大学事情

国立大学法人化，統合へ向けた本学の動向



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問
学長 西 永 頌

本年4月より学長に就任しました。どうぞよろしくお願いたします。はじめに簡単な自己紹介を致します。私は、昭和52年8月名古屋大学より本学電気・電子工学系教授として赴任し、大学創設の仕事に携わりました。次の年の4月に第1回入学生を迎えるため、榊学長のもと、八町通りにあった木造二階建事務所で、1系沖津先生、5系宇井先生、6系定方先生とご一緒に3、4系の創設の仕事を担当致しました。今までにない新しい大学の授業科目、学生実験の立案、研究室、実験室等の仕様の作成など忙しい日々を送りましたが今は懐かしい思い出です。その後、昭和58年4月、東京大学工学部電子工学科教授として17年教育・研究の仕事に携わりましたが、平成12年東大を定年退官した後、名城大学理工学部の教授として勤務の後、本学に戻った次第です。

日本の国立大学は、今、大きな改革の嵐の前に立たされています。これは、すでに前学長の後藤圭司先生の時代から始まっていますが、法人化、再編・統合をはじめ21世紀COEプログラムなど国の新しい施策にもとづく大きな変革です。法人化は、大学の設置形態を変え、いわば私立大学に近い形態をとらせるもので、本学にも非常に大きな影響があります。全国立大学は平成16年4月から一斉に法人化されることになっており、現在、文科省でそのための法案を作成中であります。法人化後は、教職員は非公務員型の身分を取ることになっており、兼業等の自由度が増すといわれています。また、従来は学科の縛りが強く、学生定員、教官定員の変更は容易ではありませんでしたが、法人化後は、学科の大きさは大学で決められるようになるといわれています。

この様に、大学側の自由度が格段に増しますが、その成果は一般社会に説明できるものでなければならず、大学の評価、教員の評価が要求されます。大学の評価は研究成果のみならず、教育、産学連携、地域連携も対象になりますので、大学は従来

の研究中心の姿勢を大きく変える必要があります。同窓生の皆さんの多くは、企業の一線で活躍されておられますので、是非、本学と企業とのパイプ役を務めていただきたく思います。

再編・統合も大きな問題ですが、紙面の関係で統合問題にしばって現状をお知らせいたします。昨年の12月、統合問題の学内ワーキンググループから、静大 浜医大の組、名工大 愛教大の組、名大の3案が統合の相手として適当との答申が出ました。今年に入り、2月、3月と2回にわたり教官に対するアンケートが実施され、統合賛成の意見の方が8割以上と、多くの方が統合に賛成されておられます。次に統合の相手ですが、名大が一番多く5割強、静大 浜医大が3割強となっております。ただし、この時点では、統合後の本学のイメージがはっきりしていない状態で回答がなされていますので、最終的な意見分布とはいえないことに注意する必要があります。

4月に入り、3案から2案を選び統合の基本的考え方をまとめ、5月末から6月はじめにかけて名大と静大に本学との統合につき検討するよう依頼しました。両大学とも誠実に対応してくださり、名大は9月の評議会で、本学との統合を前提に議論を開始することを決めております。静大との統合に関しては、静大側と本学側から委員を出し合い、両大学の統合がどのような意味を持つかその理念を話し合う懇談会が設置され、すでに話し合いがもたれております。この様に、二つの相手と話し合いを進めることは一見二股をかける失礼な方法にも受け取れますが、統合は個人の問題ではなく、本学2000名の学生、400名の教職員の今後を決める重大な出来事ですので、両者と隠さずに話し合いを続けて行くうちに自然に回答が出てくるものと考えています。同窓生の皆さんも是非沢山のご意見お寄せ下さい。しかし、最終的には大学の判断にお任せいただきたくお願いする次第です。

文部科学省『21世紀COEプログラム』に2研究課題が採択!!

新聞発表等でもご存知かと思われませんが、去る10月2日に、文部科学省の「21世紀COE (Center of Excellent) プログラム」について、豊橋技科大から2件(3件応募中)の研究課題が採択されました。もともとのプロジェクトは、分野別に国公私30大学を選んで予算を重点配分する「トップ30」の構想から始まったものです。本年度採択されたプログラムは5分野(生命科学, 情報・電気・電子, 化学・材料科学, 人文学, 学際・複合・新領域)合計で113件ですが、旧帝大が4件から11件と多くの採択を受けた影響で、大学の数としてはたった50しか名前が挙げられておりません。その中に歴史が30年にも満たない豊橋技科大が名を連ねたことは、大変な名誉であると共に、我々が母校の研究レベルの高さを日本全国に知らしめたものと言っても過言ではありません。

また、研究課題が複数採択された大学は、その中の約1/3にあたる17にとどまっており、その中に豊橋技科大が含まれていることは、様々な分野にわたる技術開発および研究成果を創出する拠点として評価されていることを示していると言えます(ちなみに、中部地方で複数件の課題が採択された大学は名古屋大と豊橋技科大のみです)。

採択された研究課題は、電気・電子工学系(大学院工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻)の石田誠教授がリーダーの「インテリジェントヒューマンセンシング」(情報・電気・電子分野), エコロジー工学系(同課程環境・生命工学専攻)の藤江幸一教授がリーダーの「未来社会の生態恒常性工学」(学際・複合・新領域分野)です。審査結果が大学に伝えられた2日には記者会見も行われ、西永学長および石田誠教授、平石明教授が喜びの声を語りました。

それぞれの課題共に、これまでの研究実績が評価された結果であり、今後5年間の進展もさることながら、統合・再編、独立行政法人化といった厳しい状況におかれる豊橋技科大が今後勝ち残るための活力となることも期待されます。

21世紀COEプログラム採択課題件数別大学リスト

採択課題件数	大学名(順不同)	大学数
11件	東京, 京都	2
7件	名古屋, 大阪	2
5件	東北, 慶應義塾, 早稲田	3
4件	北海道, 東京工業, 九州	3
3件	筑波, 立命館	2
2件	東京外語, 横浜国立, 奈良先端, 広島, 豊橋技術科学	5
1件	帯広畜産, 秋田, 群馬, 北里, 東海, 日本, 青山学院, 中央, お茶ノ水, 国学院, 法政, 東京農工, 上智, 玉川, 長岡技術科学, 静岡県立, 信州, 名城, 愛知, 名古屋工業, 岐阜, 金沢, 大阪市立, 大阪府立, 近畿, 神戸, 姫路工業, 鳥取, 愛媛, 佐賀, 長崎, 熊本, 宮崎医科	33

採択された東海地方の大学研究プロジェクト一覧

分野	大学	研究課題	総括責任者
生命科学	名古屋	システム生命科学: 分子シグナル系の統合	町田 泰則 教授
	名古屋	新世紀の食を担う植物バイオサイエンス	水野 猛 教授
情報・電気・電子	名古屋	先端プラズマ化学がひらくナノ情報デバイス	菅井 秀郎 教授
	名古屋	社会情報基盤のための音声映像の知的統合	未永 康仁 教授
	豊橋技術科学	インテリジェントヒューマンセンシング	石田 誠 教授
	名城	ナノファクトリー	飯島 澄男 教授
化学・材料科学	名古屋	物質工学の拠点形成: 分子機能の解明と創造	関 一彦 教授
	名古屋	自然に学ぶ材料プロセスの創生	浅井 滋生 教授
	名古屋工業	環境調和セラミックス化学の世界拠点	野上 正行 教授
人文科学	名古屋	統合テキスト科学の構築	佐藤 彰一 教授
	岐阜	野生生物の生態と病態からみた環境評価	平井 克哉 教授
学際・複合・新領域	豊橋技術科学	未来社会の生体恒常性工学	藤江 幸一 教授
	愛知	国際中国学研究センター	加々美光行 教授
	静岡県立	先導的健康長寿学術研究推進拠点	木苗 直秀 教授

採択プログラム総括責任者から同窓生の皆様へ

『21世紀COEプロジェクト採択のご報告』

電気・電子工学系 教授 石田 誠

皆さんお元気ですか？懐かしい人も多くいると思いますが、私も技科大に来て24年目に入っています。頭の毛が変わるのもしかたがありませんね。本日はこんなことを書くのではなく、タイトルの「21世紀COE (Center of Excellent) プログラム (いわゆる大学トップ30)」の話で、これをゲットしたこれはすごいことなのです。どんなにすごいことなのか？本学は5分野のなかの3分野に申請し、電子・情報工学専攻 (トップ20専攻採択) と環境・生命工学専攻の2つが選ばれたのです。本日も大手の新聞社 (東京本社) からの問い合わせがあり、「技科大が2つも採択されたと言うことは、失礼だが、意外で驚きである。東大でも学内で絞って申請したが、工学専攻は、3つのうち2つ採択された。技科大と同じですね。」教官と皆さんが、ずっと思ってお

られた「豊橋技術科学大学は、受験産業界をはじめとした社会の評価と実体とがあまりにもかけ離れている。」このことをついに世に広く示すことができたと言うことです！

本専攻のCOEは、「インテリジェントヒューマンセンシング」で、人間を含む種々の外界情報を人にわかりやすい情報としてとらえ対処するため、新しいセンサデバイス開発から高度なセンシング情報処理 (五感・知能処理) にいたる分野を統合する研究です (5年)。研究のみではなく、博士課程学生など若手研究者の経済的・研究支援等など、これからの大学運営に大きな変化をもたらすでしょう。期待しててください。紙面がないのでこれで。詳しくは、<http://www.jsps.go.jp/j-21coe/index.html> をご覧下さい。

『21世紀COEプロジェクトについて』

エコロジー工学系 教授 藤江 幸一

エコロジー工学系と建設工学系の教官を主体に構成されている大学院博士後期課程・環境生命工学専攻から申請していた21世紀COEプログラム「未来社会の生態恒常性工学」が採択されました。本学における環境科学・工学分野における研究教育活動の実績を評価していただいたものと考えています。その一方で、この分野の世界の研究拠点として益々の発展が期待されており責任を痛感しております。

資源・エネルギーの多くを輸入に依存しながら、国土の平坦地面積当り非常に高い産業活動を継続している我国は、資源・エネルギー消費と環境負荷の大幅な削減を併せて実現し、人間活動を支える機能を恒常的に提供できる社会システムの

構築を世界の先頭に立って実現しなければなりません。環境容量と人間活動との平衡を考慮しながら、枯渇性資源の循環と再生可能資源・エネルギーへの転換を促進し、恒常的活動を可能にする産業生態システムを実現するための学理、理念に基づくビジョン、目標に達する研究開発のロードマップを併せて提示する必要があります。

そこで本COEプロジェクトでは、1)生態環境へのインパクト評価技術の開発、2)環境インパクト関連解析、3)環境負荷低減要素技術の開発、4)恒常性の評価・価値関数設定と恒常的産業生態システム設計手法等の開発を先導的に行い、21世紀前半の持続性社会像を提示したいと思います。

第1工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 鈴木新一

エネルギー工学系、機械システム工学系の卒業生、修了生の皆様、如何お過ごしでしょうか。世の中では、狂牛病、ワールドカップ、小泉首相の北朝鮮訪問など衝撃的な話題が続いていますが、我が機械システム工学系は、系長の日比先生を中心に、研究・教育の充実に励む毎日を過ごしています。

さて、この1年の機械システム工学系内の動向をお知らせします。昨年8月から1年間、文部科学省在外研究員として米国カリフォルニア大学デービス校に派遣されていた内山直樹先生が、元気に帰国されました。日米の講義の違いなど、興味深いお話を伺いました。また機械システム工学系の新しいメンバーに、伊藤高啓先生、山本高久先生を助手としてお迎えしました。伊藤先生は東芝の電力産業システム技術開発センターで、原子炉の熱水力コードの開発に携わっておられました。また山本先生は、名古屋大学大学院博士課程において、分子化学工学を専攻された方です。優秀な若手の先生方であり、本系の更なる発展のために、大いに活躍戴けることでしよう。

就職状況は少し厳しくなっています。大学推薦を受けた学生の就職は従来通り順調なのですが、自由応募で入社試験を受けた学生は、少々苦戦しているようです。就職担当の先生によれば、この様な変化の背景には、経済状況と同時により広い社会状況の変化があるのではないかとのことでした。現役の学生・院生には、OBの話が大変参考になります。時間のある時で結構です。大学を訪れ、後輩に実社会の経験を話してあげてください。

明るいニュースをひとつ。本学学生のクラブであるロボコン同好会が「NHK大学ロボコン2002」で優勝し、「ABUアジア太平洋ロボットコンテスト」に日本代表として出場しました。優勝は逃しましたがベスト4に入り、敢闘賞とアイデア賞を受賞しました。機械システム工学課程の学生も参加しており、その模様はNHKから放映されました。

昨日、東京大学名誉教授の小柴昌俊先生がニュートリノ天文学の研究でノーベル物理学賞を受賞されました。日本人としては11人目、3年連続のノーベル賞受賞です。「科学技術立国日本。まだまだ捨てたものじゃないね。」とは小泉首相の弁です。卒業生・修了生の皆さんが、日本の科学技術の根幹を担う者として、これからも活躍されることをお祈りしております。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史，日比 昭（系長），北村健三
助教授：中川勝文，柳田秀記，鈴木孝司
助手：伊藤高啓，山本高久

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：小沼義昭，蒔田秀治，高木章二
助教授：野田 進，鈴木新一
講師：内山直樹
助手：山本和弘，関下信正，佐野滋則

[第三講座：機器設計学工学講座]

教授：竹園茂男，本間寛臣（工学教育国際協力センター），
上村正雄
助教授：埜 克己，畔上秀幸（技術開発センター），
関東康祐
助手：感本広文，竹市嘉紀（技術開発センター）
教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増 学，神谷昌宏

[事 務] 竹村圭子，野亦真理子

平成13年度就職先一覧

修 士	
アイシン エンジニアリング	アイシン精機
愛知機械工業	旭硝子
アラコ	ウシオ電機
SMC	川崎重工業
キャスコ	九州松下電器
光洋精工	コベルコ建機
NOK(株)	(株)キ-エンス
スズキ	ソニー福島
大日本スクリーン製造	デンソー
豊田自動織機	トヨタテクノサービス
トヨタマックス	鶴見製作所
大気社	東陶機器
ニデック	日産自動車
日本車両	日本インター
日立製作所	日立情報計測システム
日立プラント建設	富士通長野システムエンジニアリング
富士通ゼネラル	藤商事
マツダ	三菱重工業
ヤマハ	矢崎総業
横浜ゴム	マツダ産業
博士課程進学 1名	

学 部	
アイシン エイダブリュ	アプロ
NOK	スズキ
ゼロスポーツ	野口製作所
フタバ産業	モリック
ヤマコー	

海外渡航雑感

機械システム工学系 内山直樹

渡航先について

平成13年8月末より1年間アメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校（UCD）において在外研究を行なう機会をいただいた。デービスはサンフランシスコから約100km程北東に位置する人口6万人程度の市である。市は自転車での移動を奨励しているらしく、ほとんどすべての道路には広い自転車用通路が確保されており、実際に多くの人々が利用している。また、とても安全なところで、夜10時過ぎに一人でジョギングしている女性を幾度となく見たことがある。

アパートはほとんど空気が無く、占有率が1年間を通じてほぼ100%だという話を聞いたことがある。渡米直後から宿舎を探し始め、大学で提供している資料をもとに片っ端から電話をかけたが、「今頃あるわけないだろう」というような対応を何度か受けた。新聞で住人を募集していた大家の一人がサクラメントにある大学の教官で、たまたま日本からの研究者の（真面目な？）生活ぶりをよく知っており、小生より先に申し込みが何件もあったにもかかわらず幸い部屋を貸してもらえることになった。

授業について

何人かの先生にお願いして研究テーマに関連するいくつかの授業を聞かせてもらった。最初に聴講した授業の説明が驚くほど速く、小生の英語力不足とあいまって自信を喪失した。一緒に受講していた博士課程の学生に「他の授業もこんなに早いのか？」と尋ねたところ、「この授業は今まで受講した中で最も速いもので、とてもついていけそうにない」と答えたので少し安心した。アメリカの大学の授業は懇切丁寧であると聞いたことがあったが、他の教官の授業も総じて速かったように思える。学生は至って真剣で、いくつかの授業を通じて居眠りしている人を見かけることは最後まで無かった。もう一つ驚いたことは宿題の量である。演習問題を解くレポートに加えて、授業で学んだ内容を実際的な問題に応用するプロジェクトとよばれる課題がほとんどすべての科目で与えられる。「こんなに宿題が多くて自分の研究をする時間があるのか？」と同じ学生に尋ねたところ、「普通の学生は各学期に2科目、多くて3科目しか受講しない」と答えたので納得した。

UCDは1年を秋学期、冬学期、春学期、夏休みの4つに分けるクォータ制を採用しており、本学の3学期

制に似ているが、1週間に同じ科目の授業が2～3回、合計3～4時間程度あるので1科目の授業内容がとても豊富であるように感じた。また、週に数回同じ科目の授業を聞くと前回の授業内容が比較的新しい記憶として残っており効果的であると感じた。

研究室運営について

研究室では全てのポストドク（博士の学位を有する研究者）と学生に、一人あたり年間で数万ドルの給料が支払われていた。したがって日本の大学の研究室に比較して大きな資金が必要となるが、無条件で毎年一定の予算が研究室におりるわけではないので、教官は政府等からの競争的経費を獲得するか、あるいは企業との共同研究により資金を調達しなければならない。当然ながら予算規模に応じて受け入れられる学生の人数は異なり、小生が所属した20人以上の研究室から数人のところまで様々であった。いくつかの他の大学の研究室を見学する機会を得たが、「予算を獲得しやすい研究なので始めた」とか「企業からの研究プロジェクトの依頼はとりあえず断らないことにしている」など研究資金にまつわる話題も多かったように思う。小生が所属した研究室の学生の一人は「前の大学の指導教官はほとんどの時間を企業コンサルティングに費やし、数ヶ月に1度しか打ち合わせができず、とても卒業できそうにないので今の研究室に移ってきた」と言っていた。日本の大学は今回の大学改革を通じてアメリカ式に近づくのかもしれないが、いろいろと考えさせられることが多い1年間であった。

最後に今回の渡航に関してお世話になりました皆様に本紙面をお借りして御礼申し上げます。

第一工学系同窓会収支報告

（平成13年度分 単位 円）

収 入	
H12年度からの繰越金	3,536,659
終身会費（5人分）	50,000
利 息	202
合 計	3,586,861
支 出	
1系同窓会報印刷費	44,420
会報発送費	154,534
アルバイト代	46,000
HP作成用ソフト代	10,185
H14年度への繰越金	3,331,722
合 計	3,586,861

お詫びと訂正

昨年度の収支報告において繰越金の額に誤りがありました。会計担当者の単純な記載ミスによるものです。この件につきお詫びし、以下のように訂正致します。

平成11年度からの繰越金

誤：2,641,111円 正：3,193,271円

平成13年度への繰越金

誤：2,984,499円 正：3,536,659円

研究室だより

流体工学研究室の近況

機械システム工学専攻修士1年 小森 隆史

卒業生、修了生の皆様、いかにお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれ大いにご活躍されていることと存じます。

現在、流体工学研究室の中の柳田研究室は、柳田秀記助教授の下、修士課程4名、学部4名、市内企業からの共同研究員1名の計10名で活動しております。やや少人数ではありますが、それぞれの個性を生かしたチームワークが自慢の研究室です。そろそろ研究室では、和やかムードから一転、論文作成に向けてあわただしくなっています。

当研究室は、大まかに「制御グループ」、「静電フィルターグループ」、「EHDグループ」の3つのグループに分かれており、学生たちはその中で個別の研究テーマについて、日夜取り組んでおります。「制御グループ」では、電気油圧サーボシステムのロバスト制御に関する研究に加え、今年度より2次元流れ場のロバスト制御についての研究も行っております。「静電フィルターグループ」では、静電気力による汚染粒子の凝集を利用した、静電フィルターの研究開発を行っております。「EHDグループ」では、EHD（電気流体力学）流動現象の応用研究として、イオンドラッグポンプの試作、ならびに性能評価を行っております。また昨年度より、本学体育保健センターの安田好文教授との共同研究として、動脈硬化診断のための脈波伝播速度計測システムの研究開発に加わっています。

研究室の行事では、例年学会発表を兼ねた研究室旅行を行い、今回はNHK大河ドラマ「利家とまつ」で話題の金沢に行っていました。また年に数回、同じ流体工学研究室内の日比研究室と合同でコンパを開き、日頃の研究の疲れを解放しています。

卒業生、修了生の皆様におかれましては、豊橋近辺にお越しの際は、お気軽にお立ち寄り下さい。研究室行事へのご参加も、研究室一同、心よりお待ちしております。

末筆となりましたが、諸先輩方のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。



固体力学研究室の近況

機械・構造システム工学専攻3年 永田 正道

卒業生・修了生の皆様、変わりなくお過ごしでしょうか。それぞれ、大学での経験を糧に大いにご活躍のことと存じます。現在、竹園研究室と固体力学研究室は、竹園茂男教授、坪克己助教授、感本広文助手の3名の教職員スタッフの下、博士後期課程3名、修士課程11名、学部4年生4名の総勢21名で構成されています。そのうち中国からの留学生が3名、タイからの留学生が2名おります。研究室に来られた当初は、日本語がほとんど話せない方もいらっしゃいましたが、今ではすっかり日本語にも慣れてしまったようです。そのため、普段の日常会話などは主に日本語で行っていますが、時折、留学生同士が話すそれぞれの母国語や、日本人学生との間で交わされる怪しげな英会話も飛び交うこともありまして、毎日、賑やかなコミュニケーションが見られる研究室となっています。ただ、竹園茂男教授が今年度で長い教職員生活の定年を迎えられることもあり、研究室の規模は最盛期の頃にくらべ3分の2程に縮小してしまいました。空席が目立つ机が並び、研究室の風景は少し寂しくもあります。

さて、現在、研究室で扱っている研究テーマについて少し紹介いたします。大別しますと[1]構造物の強度に関する研究、[2]構造材料の強度と破壊に関する研究、[3]自動車衝突事故解析に関する研究、[4]医療工学に関する研究といった4種類のテーマに分類出来ます。[1]では、主に殻構造物を対象とし、従来行ってきた解析主体の研究に加え、実験による検証も行っております。[2]では、耐熱合金を始め、PTFE（テフロン）、複合材料（CFRP、CFCC）、燃系といった、幅広い材料を扱っております。[3]では、衝突した車両の挙動だけでなく衝突という現象そのものについての研究も行っております。また、最近始めたばかりのテーマではありますが、[4]では、癌治療に用いられるハイパーサーミアの人体に与える影響を調査するといった目的から、電磁波、伝熱などを考慮した解析を行っていき、構造力学の枠に捕らわれない新しいテーマだと言えるのではないかと思います。細かいテーマやここ数年の研究成果などを研究室のホームページでも公開しております。興味のある方は下記のアドレスをご覧ください（<http://takezono.mech.tut.ac.jp/>）。

研究室の行事には、新入生歓迎会に始まり卒業生・修了生の追い出し会まで1年を通して節目ごとに行われる宴会や、夏休みに行われる毎年恒例の研究室旅行などがあります。今年はお隣の静岡県にある浜名湖の近辺に行ってきました。竜ヶ岩洞では自然の力で作り上げられた地中の空間と夏でも涼しい鍾乳洞の空気に触れ、オルゴール記念館では各人、思い思いのオリジナルオルゴールを作って楽しみました。普段は厳しい印象のある竹園先生が、楽しそうにオルゴールを作っておられる姿は印象的でした。台風接近中の折、強行された旅行でしたが、特に台風の影響を受けることもなく済み、楽しい旅行になったと思います。

そろそろ10月も近付き、論文作成のある者は研究に、講義のある者は講義の合間を縫って研究に、学生一同、日夜精力的にがんばっております。また、豊橋方面にお越しになれることがあれば、お気軽に研究室の方にお立ち寄り下さい。研究室一同、心より歓迎させていただきます。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍・発展を心よりお祈り申し上げます。

研究室だより

高速力学・光計測研究室の近況

機械システム工学専攻修士2年 大嶋紀安

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？皆様におかれましては、それぞれの職場において大いにご活躍のことと存じます。

さて、本研究室の近況についてご報告いたします。現在、鈴木新一助教授を中心に博士2年生：1名、修士2年生：2名、1年生：2名、学部4年生：2名の計8名で日夜研究に励んでおります。小規模ではありますが、一人一人の強烈な個性と研究に対する熱意で、研究室の存在感は十分にあります。そんな私たちが現在取り組んでいる研究テーマを紹介いたします。

- (1) 高速度ホログラフィ顕微鏡法による高速進展き裂の3コマ連続撮影
- (2) モアレ干渉法を用いた開口変位測定
- (3) 多重反射による光干渉法の高感度化
- (4) 社会性昆虫が持つ群知能に関する基礎的研究
- (5) 水中放電時に発生する衝撃波の可視化及び基礎調査

(5)については今年度からスタートした研究です。水中放電時に発生する衝撃波は、“体外衝撃波結石破砕法”として医療分野で既に実用化されています。しかしながら、発生させた衝撃波が完全に収束しないなどの問題点も残されています。このような問題点を解明するため、学部4年生の2名が頑張っている研究しております。

また、年間行事の1つである毎年恒例2講座ソフトボール大会（新歓）では、圧倒的な差をつけ優勝をすることができ、研究以外でも活発に活動しております。

研究室には昼夜を問わず、学生の出入りがあります。学部4年生は卒業論文に向けて、修士2年生は修士論文に向けて、そして修士1年生は来年度の修士論文に向けて今後も精力的に研究を進めていきたいと思っております。卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋へお越しの際は是非本研究室へお立ち寄りいただきまして、ご助言等いただけましたら光栄です。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご躍進・ご発展を心よりお祈りしまして、高速力学・光計測研究室の近況報告を終わらせていただきます。

トライボロジー研究室の近況

機械システム工学専攻修士1年 沖本一貴

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍なさっていることかと存じます。

さて、トライボロジー研究室は、上村正雄教授、竹市嘉紀助手のもと、固体潤滑に関する研究を中心に行っており、各種の実験を通して摩擦・摩耗のメカニズムを解明することを目的とした研究を行っています。また、表面分析などの分析手法を積極的に取り入れ、摩擦面における潤滑剤の分布状態や化学状態を調べることで、摩擦機構のより詳細な解明を目指しています。

学生は計14名（博士3年1名、修士2年4名、修士1年4名、学部4年5名）で構成されています。このうち学部4年に一人留学生在がいます。各人共に、学部4年生時に配属されてから、大学院卒業までの3年間に装置の設計、実験、分析などを通してトライボロジーの基礎を勉強しています。

研究室には研究班が5つあり、人工関節、ボールジョイント、軟質金属潤滑薄膜、高分子複合材料、レーザー援用溶射被膜の各項目におけるトライボロジーについて、学生一同、熱意と好奇心を持って精力的に研究に励んでいます。さらに今年度からは、ゼミなどの研究室内での勉強会の強化を計り、専門分野の知識のさらなる習得を目指しています。

また豊橋方面へ来られることがありましたら、どうぞ気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎させていただきます。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なる躍進・ご発展をお祈りしています。



第2工学系

豊友会

—for you—

(生産システム工学系同窓会会報)

JABEE 認定をめざして

生産システム工学系系長 堀内 宰

卒業生、修了生の皆さん、こんにちは。お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年度の電気・電子工学課程について、今年度、生産システム工学課程が「機械および機械関連分野」で、JABEE（日本技術者教育認定機構）の試行審査を受けることになり、目下、その準備で大忙しです。2年後には本審査を受ける予定です。JABEEは「生産システム工学課程の教育プログラムが国際的水準であるか否か」を審査します。単なる教育内容ばかりでなく、教育システムも審査されるので、従来、とすれば先生から学生への一方通行的な授業であったものを、学生の質問に個別対応するためのオフィスアワーを設けたり、学生に授業の評価をしてもらったりして、学生からフィードバックをとり、それにもとづいて授業を改善するという、クローズドループを形成し維持しなければなりません。これを機会に、当系の教育研究のさらなるレベルアップを図るとともに、学生が単なる専門知識の習得だけでなく、自らの考えで物事の本質を見極めて創造する能力や、継続的に自己研鑽する習慣を身につけることをめざしたいと思います。

JABEE審査を受けるにあたって、卒業生、修了生の皆さんにアンケート調査などお願いしますので、その節はご協力のほどよろしく申し上げます。

学内近況報告

製錬工学研究室 横山 誠二

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。各職場で御活躍のことと思います。

小林教授の副学長就任にともない、堀内教授が系長に就任されました。現在、堀内先生を中心に教職員一同研究、教育に励んでおります。系としては、入学、

就職状況も例年通り良好のようです。これらはひとえに皆様の御活躍があつてのことと思います。

さて、教職員の移動につきまして簡単に御報告いたします。平成14年3月に接合加工研究室の星教授が定年退官されました。14年4月に、小林教授が副学長に就任されました。福本昌宏助教授が教授(接合加工研究室)に昇進されました。また、安井利明(助教授、工作センター(接合加工研究室))、王 磊(助教授、材料保証学研究室)、三好孝典(講師、システム制御研究室)、Gunawarman(助手、医療福祉工学研究室)、戸高義一(助手、工作センター(材料機能性御研究室))が当系に就任されました。6月にHao Xin-Jiang(材料機能制御研究室)助手が基盤材料研究所(筑波)に転出されました。8月からは矢野賢一(システム制御研究室)助手がドイツのベルリン工科大学に留学されています。また、材料保証学研究室の戸田裕之助教授がイギリスのサザンプトン大学に1年間(昨年10月から本年10月まで)留学されていました。10月に北島禎二(システム創製研究室)助手が東京農工大学に転出されました。その他の当系の近況につきましては下記ホームページ(<http://www.tutpse.tut.ac.jp/>)で随時報告しておりますので御覧下さい。

末筆ながら、皆様の御健康と益々のご発展を御祈念いたすとともに、近くへお越しの際には大学にお立ち寄り下さり、近況等お話し下さるようお願い申し上げます。

[材料工学講座]

教授：川上正博(工作センター長)、梅本 実
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、王 磊、横山誠二

助手・教務職員：戸高 義一(工作センター)、森田繁樹

[生産計画学講座]

教授：清水良明、寺嶋一彦
助教授・講師：三宅哲夫、堀畑 聡、三好孝典
助手：柳 在圭、矢野賢一

[加工学講座]

教授：堀内 宰、森謙一郎、福本昌宏(系長補佐)
助教授・講師：牧清二郎、鈴木浩文、安井利明(工作センター)
助手・技官：原田泰典、澁谷秀雄、小楠和彦、椿 正己

[系共通研究室]

教授：新家光雄
助手：赤堀俊和、Gunawarman

着任のご挨拶

生産システム工学系助教授 王 磊

4月に生産システム工学系の助教授として着任致しました王 磊(わん れい)です。これまでに中国政府派遣の研究者(1989年)、文部省の国費留学生(1994年)、そして本学の助手(1997年)として豊橋技科大にてお世話になりました。長い間お世話になった大学にてお仕事をさせて頂けることは嬉しいことであるとともに重大な責任感を感じております。私は1982年に中国の東北大学を卒業してから、その後日中両国の大学にて研究・教育の生活を送って参りました。私の専門分野は材料工学および材料保証学であります。言い換えれば、材料の高性能化の道を求めることであります。特に現代化社会では高速度化に伴い、高負荷速度下における材料の破壊特性、又は同時に環境を考慮した材料の破壊特性の評価およびその対策に関する研究を行っております。微力ではありますが研究と教育に全力を尽くして頑張っていきたいと考えております。よろしくお願いたします。



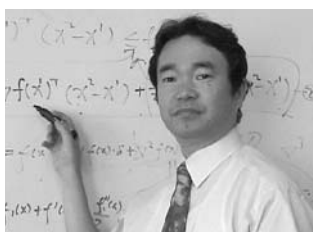
工作センター助教授 安井利明

今年の4月より本学の工作センターの助教授として着任いたしました、安井利明です。平成6年に大阪大学大学院基礎工学研究科機械科学分野で博士課程を修了後、助手としてこの3月まで大阪大学で勤務していました。豊橋へ赴任して間もない頃は、交通が不便なことや風がやたら強いといった大学周辺の環境にいささか面食らいました。しかし今では、自然に恵まれたこの環境が故郷の徳島に似ているため気に入っています。そんな自然環境の中にあつて本学は、図書館や情報処理センターなどの各種付属施設が十分整備されており、理想的な教育・研究環境であると思っております。これからは、本学の工作センターの運営や安全教育に携わる一方、生産システム工学系の接合加工講座で研究指導にもあたります。新たな気持ちでがんばりますので、どうかよろしくお願いたします。



生産システム工学系講師 三好孝典

4月よりシステム制御研究室に講師として赴任しました三好孝典です。これまで13年間、ローランドDG(株)という会社に勤務し、プロッタやカッティン



グマシン、小型卓上工作機などのサーボコントローラを設計してまいりました。

こちらに着任しました経緯は、在職中に「ミニ大学院・アフターファイブコース」を受講し、それが縁で96年に本学大学院に入学(社会人入学)し、その後博士課程まで修了、本年3月末をもって退社、教官として舞い戻って来た次第です。

教育という業務あるいは大学という組織は、企業のような「上司の指示、部下の報告」という効率的である一方、上意下達の組織とは全く異なる体制を要求します。戸惑いながらもこれまでの経験を生かして、未来の同窓生たちが社会に羽ばたくお手伝いをしていきたいと考えております。

生産システム工学系助手 グナワルマン
Gunawarman

I come from Indonesia. In my country, I am a lecturer with department of Mechanical Engineering, Andalas University, Padang, West Sumatera. I started to join Graduated School of Toyohashi University of Technology as a research student in October 1998. I then registered for doctoral program in the field of Functional Materials in April 1999, and earned doctor of engineering in March 2002. The title of my thesis during my doctoral study was "microstructural control and fracture characteristics of low cost a+b type titanium alloy with high superplastic formability".

Since April 2002, I have been serving as a research associate with Prof. Mitsuo Niinomi at Medical and Welfare Engineering Laboratory, department of Production Systems Engineering, Toyohashi University of Technology. My research interest includes investigations of relationship between microstructure and mechanical properties, in particular, fracture toughness of titanium alloys. I have contributed research articles to several distinguished journals in the field of Materials Science and Engineering.



工作センター助手 戸高義一

本年度より工作センターの助手に着任しました。金属材料の創製およびその物性について研究しています。大分高専から本学へ編入学し、昨年度博士後期課程を修了するまでの約7年間をここ豊橋で過ごしました。本学は研究設備はもちろんのこと、自然環境にも恵まれ、充実した学生生活を送ることが出来ました。このような素晴らしい大学で新たなスタートが切れることをうれしく思います。若輩ですが宜しくお願致します。



研究室だより

システム創製研究室の近況報告

生産計画学講座助手 柳 在 圭

卒業生の皆様、お元気でしょうか。社会人としての自覚を持ってそれぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

現在、システム創製研究室では、清水良明教授を中心として、北島禎二助手、柳在圭助手のスタッフと、修士2年生6名、修士1年生7名、学部4年生7名、研究生1名の総勢24名で構成されております。

主な研究テーマは、多目的意思決定支援による生産システムの柔軟な計画と設計・管理（ソフト・パラレルコンピューティング援用による多目的組合せ最適化問題の解法、プロセスのモデリングや制御へのニューラルネットワークの適用など）と環境調和型生産システムのためのライフサイクル（製品ライフサイクルの評価のための情報技術インフラ構築、フルコストアカウントによるシステム評価など）に関する研究をはじめ、柔軟な生産システム（自律分散型スケジューリングシステム、バッチプロセスのレシピアエンジニアリングの実現など）と合理的な生産システムの構築（Pull-Push型生産制御システム、全生産システムの合理的な生産体系の構築など）に関する研究を行っております。研究室の近況、研究内容などの詳しい情報は、下記の研究室ホームページに記載されていますのでご覧ください。

<http://www.sc.tutpse.tut.ac.jp/Research/>

研究室のレクリエーションは、新歓コンパ、夏のパーベキュー、橋爪杯（バレー＆バスケット）、忘年会、新年会、追い出しコンパなどを行っています。また、本年度の嬉しい出来事としては、2系内のソフトボール大会で本研究室が念願の優勝を果たしたことがあげられます。これは、日ごろから高めていた研究室の結束によるものだと思っております。

卒業生は電気、情報処理、化学、機械、自動車関連など幅広い分野の会社へ就職しています。最後になりましたが、卒業生のそれぞれの分野で更なるご活躍を心よりお祈りしております。



接合加工研究室の近況報告

加工学大講座助教授 安 井 利 明

卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか？

本年度から接合加工研究室は、福本昌宏教授の下、安井利明助教授（本年度より着任）、椿正巳技官の3名のスタッフで研究教育にあたっています。また研究室では、博士課程1名、修士課程9名、学部生7名の計17名の学生に、中国からの学振外国人特別研究員1名を加え、溶射プロセスを中心とした以下のテーマで研究活動を精力的に行っています。

1. 溶射における粒子偏平・凝固現象の解明
2. メカニカルアロイ粉末を用いた溶射によるナノ組織皮膜作製
3. 溶射による光触媒皮膜創製の実用化実験
4. 反応性プラズマ溶射による窒化物の高速成膜
5. 固相摩擦撹拌接合法による異種金属接合

また上記テーマに加え、高温プラズマ熱源の開発研究などを新たな研究テーマとして取り上げる予定です。

さて、研究以外の研究室の近況については、以下の在校生の報告をお聞き下さい。

「研究以外では、新歓コンパ、夏の旅行、忘年会、追い出しコンパはもちろん、夏には花火大会、冬には大鍋大会、一年を通してカレー大会、お好み焼き大会等の行事を行っています。今後も伝統の行事に新しい行事を随時プラスしていく予定です。また、昨年の生産システム工学系内研究室対抗早朝野球・サッカー大会ではチームワークを生かして見事、両種目共に上位入賞を果たしました。このことで研究室内の親睦がよりいっそう深まりました。このように、研究をより充実したものにするためにレクリエーションにも力をいれているので、研究室内は常に良い雰囲気になっています。（修士1年熱田君談）」

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室を暖くご支援くださるようお願い申し上げます。なお、研究室の様子や研究の詳細についてはホームページ（<http://setu.tutpse.tut.ac.jp>）でもご覧いただけます。



研究室だより

材料機能制御研究室の近況報告

材料工学講座修士2年 徳宮良太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。技科大で学ばれたことを職場で活かされていることと思われま。現在、材料機能制御研究室では、梅本教授、土谷助教授、Hao助手、戸高助手、荒井秘書の5名のスタッフと博士課程の学生2名、修士課程の学生10名、学部4年生が6名と研究生1名の総勢24名で研究活動を行っております。海外の大学との交流が盛んで、中国、ルーマニア、メキシコなどの国々から本研究室に留学生が来ております。現在、留学生は3名在籍し、研究・勉強しております。留学生とは主に英語で会話するため、学生にとってよい英会話の機会となっております。

本研究室は、鉄鋼グループ、形状記憶合金グループ、ナノ粒子グループ、熱電グループの4つのグループで構成されています。これらの中には、企業や他大学との共同研究を行っているグループもあり、産学間の連携を強める積極的な研究を行っております。学生は主に、毎年春と秋に開かれる日本金属学会と日本鉄鋼協会で研究発表をしております。また、毎週行っているディスカッションではグループ毎に学生がデータを持ちより、意見を出し合い、先生方のご指摘のもとにこれまでの研究の反省とこれからの研究の計画を立てております。

本研究室では4月に梅本先生のご自宅で新歓のパーベキューパーティーを行っており、写真は今年の新歓パーティーの際に撮影したものです。その他にも、夏には研究室旅行を、冬には忘年会、卒業コンパ等を行っております。

研究室の詳細については、以下のURLにてホームページを作っておりますので、一度ご覧ください。
(<http://martens.tutpse.tut.ac.jp/>)

先輩方のこれまでの伝統を活かし、よりよい研究を模索しながら毎日の研究生活を送っておりますので、研究室にお立ち寄りくださり、激励、ご助言下されば幸いです。



豊友会事務局から

平成13年度収支報告

収入の部

前年度繰越金	2,351,310
会費(各系分配金)	427,592
普通預金利息	496
収入合計	2,779,398

支出の部

会報発送総会案内作業代	62,975
会報および総会案内発送代	305,020
名簿更新作業代	4,500
次年度繰越	2,406,903
支出合計	2,779,398

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
FAX: 0532-44-6690
E-mail: admin-2@tut-ob.org
Home page: <http://www.tut-ob.org/>

代 表	澁谷 秀雄
会計担当	赤堀 俊和
会報担当	森田 繁樹
名簿担当	赤堀 俊和
ホームページ担当	戸高 義一
委 員	矢野 賢一

第3・4工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

澤田和明

修了生、卒業生のみなさん、ますますご活躍のこと
と思います。景気の状況は未だに明るい話は聞こえて
いませんが、3系の就職状況は順調で、これも修了生、
卒業生のみなさんの、ご活躍の賜であると思ってお
ります。

さて、電気・電子工学系では平成14年3月に電気シ
ステム大講座助手であった見目喜重先生が技科大を去
られ、豊橋創造大学に移られました。また次の3名の
先生方を技科大にお迎えしました。(財)鉄道総合技術
研究所から、基礎電気・電子大講座の助教授として中
村雄一先生がお見えになりました。基礎電気・電子
大講座の助手として稲田亮史先生がなられました。技
術開発センター助手として西村一寛先生がなられまし
た。

事務室では、吉田健一さんが名古屋大学へ移られ、
水野真治さん、木下紗会子さん、井上恵美子さんは退
職されました。産休中でした大宮明代さんは6月から
復帰されました。新しく池村功樹さんが研究協力課か
ら系事務へ見えになり、山田麗子さんが新しく系事務
補佐員になりました。

統合、独立法人化と大学をとりまく環境も厳しさを
増しています。しかしながら、優秀な人材を大学が輩
出し、その卒業生・修了生のみなさまが社会でご活躍
されれば、技科大の未来は決して暗いものではないと
確信しております。みなさまのご活躍を期待してお
ります。

情報工学系

中内茂樹

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか？ご
存知のように今年4月から西永学長新体制となり、
息をつく暇もなく、独立行政法人化、大学統合と
いう、これまでに経験したことの無い難問と格闘
しております。

さて、情報工学系ではこの1年間に転出・転入さ
れた先生はいらっしゃいませんでした。一方、4月
に情報システム大講座の上原秀幸先生が講師に昇
任されました。また、8月にはマレーシアのマルチ
メディア大学に1年間滞在されていた情報システム
大講座の後藤信夫助教授が復帰され、その直後よ
り同大講座の高橋港一助手が1年間の予定で同マル
チメディア大学に滞在されておられます。

まさしく激動の時代を迎えている本学ですが、
これまで以上に教育にそして研究に力を注ぎ、本
学をもっと世界にアピールしていかねばなりません。
先の読めない時代ではありますが、これを好
機と捉え、本学が生まれ変わることができるよう、
教官一丸となって努力していきたいと思ってお
ります。

電気・電子工学系 / 情報工学系教職員一覧

電気・電子工学系

[基礎電気・電子大講座]

教授 : 太田昭男, 井上光輝
 助教授 : 服部和雄, 中村雄一
 講師 : 内田裕久
 助手 : 西村一寛, 稲田亮史

[電気システム大講座]

教授 : 恩田和夫, 榊原建樹, 長尾雅行
 助教授 : 穂積直裕, 乾 義尚, 滝川浩史
 助手 : 伊藤衡平, 村本裕二
 技官 : 日比美彦

[電子デバイス大講座]

教授 : 吉田 明, 米津宏雄, 石田 誠
 助教授 : 朴 康司, 若原昭浩, 澤田和明
 助手 : 岡田 浩, 高尾英邦, 古川雄三
 技官 : 足木光昭

情報工学系

[計算機大講座]

教授 : 中川聖一, 中島 浩, 永持 仁
 助教授 : 梅村恭司, 高田広章
 講師 : 宇津呂武仁
 助手 : 大野和彦, 石井利昌, 北岡教英
 技官 : 片岡嘉孝

[情報処理大講座]

教授 : 臼井支朗, 金子豊久, 宇野洋二
 助教授 : 栗山 繁, 中内茂樹
 講師 : 福村直博
 助手 : 早坂太一, 青木公也, 福田浩士

[情報システム大講座]

教授 : 宮崎保光, 田所嘉昭, 横山光雄
 助教授 : 後藤信夫
 講師 : 和田和千, 上原秀幸
 助手 : 高橋港一, 野口健太郎, 佐々木正明
 教務職員 : 佐々木秀記

事務官

池村功樹, 大宮明代, 山田麗子

同窓会役員

[電気・電子工学系]

村本裕二, 見目喜重 (豊橋創造大), 西村一寛,
 稲田亮史
 E-mail: admin-3@tut-ob.org

[情報工学系]

早坂太一, 高橋港一, 野口健太郎, 福田浩士
 E-mail: admin-4@tut-ob.org

平成 13 年度

電気・電子工学系 / 情報工学系同窓会会計報告

	平成 13 年度決算
収入の部	
平成 12 年度繰越金	4,568,336
平成 12 年度終身会費入金	980,000
預金利息	990
収入合計	5,549,326
支出の部	
平成 12 年度会報発送費	226,419
平成 12 年度会報発送作業費	63,080
平成 13 年度会報発送費	246,475
平成 13 年度会報発送作業費	58,670
平成 13 年度会報執筆御礼	18,000
小 計	612,644
次年度繰越金	4,936,682
支出合計	5,549,326

注意

従来、会報発送費は全学会計が立て替えていたため、前年度の発送費を次年度に支払っておりました。しかし、平成 13 年度から、発送を完全に各系で行うようになり、発送費を当該年度に各系の会計から支払うようになりました。

そのため、平成 13 年度は、平成 13 年度および 13 年度の 2 年分の会報発送費が計上されています。なお、繰越金を比較していただくと分かりますが、平成 13 年度も収支は黒字になっております (繰り越しが 40 万円弱増加しています)。

研究室だより

超電導工学研究室

電子・情報工学専攻博士後期課程2年

坂元周作



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様共に各分野の最前線でご活躍のことと存じます。

現在、超電導工学研究室は太田昭男教授と今年度から当研究室に来られた中村雄一助教授と、昨年度助手になられた稲田亮史助手のもと、博士1人、修士6人、学部8人の計18人で構成されています。

現在の研究テーマとしては、a)高温超電導線材の機能設計に関する研究、b)超電導厚膜を利用した高周波用共振器に関する研究、c)走査型ホール素子顕微鏡を用いた鉄鋼材料の非破壊診断に関する研究と大きく3つに大分されます。a)は、超電導線材の送電ケーブルや変圧器への応用を目指して低損失で高い均一性を示す超電導線材の開発を行っており、最近では、線材加工用の二軸圧延機を導入し、さまざまな線材について作製・評価を繰り返し行い、興味

深い研究結果が得られています。b)の研究については、これも最近新たに冷凍機とネットワークアナライザを増設し、携帯電話の基地局などへの応用を目指しています。

と、ここまでは超電導に関係した研究なのですが、c)は、研究室の設備を利用して、鉄鋼材料等の疲労診断を行おうという新たな試みを行っています。超電導工学研究室も改革の時期に来ているのです。

このような実験のみならず、最新の研究内容に触れるためにゼミを各学生が持ち回りで行き、毎回それらの内容について熱い議論を交しています。また、年に一度は液体ヘリウムを使った実験を夜を徹して行き、実験をすると共に学生間の友好を深めています。多忙な太田教授のスケジュールの間を見つけては春と秋に遠足に出かけ、これまた先生方と学生の絆を深めるのに一役買っています。

現在、研究室のWeb Site(<http://www.super.eee.tut.ac.jp>)では、研究室紹介やメンバーについての情報を公開しています。掲示板も開設していますので、OB/OGの皆様方のメッセージを何か書いていただけたら幸いです。

最後に、豊橋に来られましたらぜひとも研究室に立ち寄ってみてください。我々研究室一同、心からお待ちしております。

高電界絶縁現象研究室

電子・情報工学専攻博士後期課程1年

李 哲奎

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いにご活躍のことと思います。

現在の高電界絶縁現象研究室は、長尾雅行教授の

もと、穂積直裕助教授と村本裕二助手と日比美彦技官とともに、秘書1名、博士3名、修士15名、学部9名の総勢32名のメンバーで構成されています。メンバーは結構多い方ですが、和気藹々と過ごしてお

ります。また毎年夏ゼミ（研究室旅行）と毎週P.R.（Progress Report）、輪講とたまにある研究室での飲み会、コンパなどを長尾先生の優しさと穂積先生のユーモアと村本先生のカリスマに囲まれてみんなで非常に楽しみながら行っております。

研究テーマは、電気絶縁分野に関する研究を進めており、具体的にはトリーイング現象（エポキシ樹脂と充填剤複合系、シリコンゴムにおける自己回復性現象）、空間電荷（高分子フィルムにおける空間電荷挙動観測、キャリア移動度の算出）、超電導ケーブルおよびNIFS（核融合科学研究所）における極低温絶縁（エチレンプロピレンゴムにおけるトリーイング現象、絶縁紙・氷複合系のケーブル絶縁への応用、極低温冷媒中の異物挙動が及ぼす電気絶縁の影響）、高分子屋外絶縁（ポリマーガイシ）、高分子固体内部界面（ケーブル接続部を模擬した電気絶縁現象）、高分子絶縁薄膜（熱パルス法を用いた空間電荷挙動の観測）、部分放電計測およびシミュレーションなどを引き続き主のテーマとして研究しております。昨年からは新しい研究として医用研究分野および環境分野を開拓し、現在超音波を用いて医用フーリエ変換型超音波顕微鏡と動脈硬化診断など

の研究と光技術を用いて水中汚染物の検出方法なども含め活発に行っております。それぞれの研究テーマで学生たちは不撤晝夜に昼夜を問わず精力的に研究を行っています。

研究室のホームページ（<http://boss.eee.tut.ac.jp>）では研究内容、メンバー紹介などを公開しており、研究室の普段の様子を感じることができると思われます。是非一度ご覧いただけたら幸いです。また豊橋に来られる機会がありましたら、ぜひ研究室へもお立ち寄りください。心よりお待ちしております。



クリーンパワー変換工学研究室

電気・電子工学専攻修士課程1年

楠 博 敦

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いに活躍のことと思います。

クリーンパワー変換工学研究室は、恩田和夫教授、伊藤衡平助手、日々美彦技官と共に、修士6名、学部4名の総勢13名のメンバーで構成されています。現在取り組んでいるテーマは4つに分類され、それぞれの研究テーマで学生たちは精力的に研究を進めています。以下、各テーマおよび研究室行事の紹介をいたします。

燃料電池グループ（メンバー：M2 宮内，B4 郡）

研究テーマは、「固体高分子型燃料電池（PEFC）の実験・解析」です。燃料電池は水素と酸素から水と電気のみを得るクリーンな発電システムです。そ



の中でもPEFCは低温動作が可能であり、燃料電池自動車などで期待されています。そこで、PEFCのさまざまな条件での電流分布や出力変化における過渡特性等について実験・解析を行っています。

除湿グループ（メンバー：M1 客野，B4 服部）

研究テーマは、「水の蒸発吸熱とカチオン交換膜による除湿」です。これは冷風扇の冷却能力と、水電解によって水を分解して除湿する空調システムです。カチオン交換膜とは水素イオンなどを選択的に透過する膜で、我々は固体高分子膜を使っています。主な研究としては、膜の物性値の測定です。

二次電池グループ（メンバー：M2 影目，M1 大島，B4 中山）

研究テーマは、「大型二次電池の熱挙動シミュレーション」です。実験・解析では、小型ニッケル水素二次電池と、リチウムイオン二次電池を用い、充放電時の温度変化や全発熱量について測定を行っています。これまで、2種類の電池に対して、測定値と解析値は、温度変化、発熱量ともに良く一致した結果が得られています。

放電グループ（メンバー：M2 漆畑，M1 楠，B4 大庭）

研究テーマは、「NO_xの放電脱硝」と「水電解オゾン生成」です。放電脱硝では実験・解析を行っています。実験では平板電極で放電を行いQMSを用

いて脱硝過程で重要な化学種であるN, OHラジカルなどの測定を行っています。また、オゾン生成では固体高分子膜を用いて、オゾン生成を行っており、現在は生成効率の高効率化を目指しています。

研究室行事

5/1：新歓コンパ 今年の恩田研は学部生に一番人気があり、頼もしい後輩も増えました。

7/21～7/23：2泊3日で奥飛騨に行って、心も体もリフレッシュ！

8/29：技科大主催 サッカー大会出場、残念ながら予選敗退です。（2勝1敗）

9/19：学会発表 燃料電池・放電解析・オゾンについて発表を行いました。

研究室のHP（<http://www.clnpower.eee.tut.ac.jp/>）では研究内容、メンバー紹介などを公開しており、研究室の普段の様子を感じることができると思いますが、是非一度ご覧いただけたら幸いです。豊橋に来られましたらぜひとも研究室に立ち寄ってみてください。我々研究室一同、心からお待ち申しております。

生体・神経情報工学研究室

情報工学系助手

早坂 太一



OB・OGの皆様、いかがお過ごしでしょうか？

臼井・中内研究室には、臼井教授の幅広い人脈によるものか、今年もビッグなゲストが多数来研されました。

新聞発表等で、中部地区のOB・OGにおかれましてはご存知の方々もおられるかと思いますが、5月21日に豊橋技科大とヨエンス大学（フィンランド）との間で交流協定が結ばれました。調印式には、豊橋技科大側から西永学長および臼井教授他4名、ヨエンス大側からユッシ・パーキネン理学部計算機科学科長およびティモ・ヤースケライネン同学部物理学科長が出席しました。

1997年に、その当時ラッペーンランタ工科大学（フィンランド）におられたパーキネン教授が臼井教授を訪問し、両研究室の間で色彩工学に関する分野を中心とした共同研究を始めたことがきっかけとなりました。1998年から1999年にかけては、中内助教授が文部省在外研究員（当時）として10ヶ月

間同大学に滞在しています。その後、国際会議等の用務の際に双方が互いの大学を訪問し、研究交流を重ねて友好関係を深めてきました。

調印式に先立つ20日には、パーキネン教授およびヤースケライネン教授により、色彩分光学における最新の研究成果をご講演いただきました。その後、白井・中内研究室で親睦会が行われ、普段日本語しか使用しない学生にとっては、緊張に顔を引きつらせながらも、両教授の温かい人柄に触れることができた大変に楽しい一夜となりました。

7月28日の大学公開日には、特別講演者としてあの毛利衛さんが来られましたが、講演前に白井・中内研究室にお立ち寄りいただきました(写真)。毛

利さんが1992年9月に米スペースシャトル・エンデバーにパイロッドスペシャリストとして乗り込み、日本の宇宙実験「ふわっと92」を行ったことはまだ記憶に新しいところですが、その中の「コイの宇宙酔い」を調べた実験データは本研究室で解析が行われており、毛利さんのたつての希望で今回の見学が実現しました。

当日こちらからは、本研究室の研究成果を紹介すると共に、ほとんど無理やりに毛利さんの両眼のデータを測定させていただきました。10分あまりのご滞在でしたが、カメラのフラッシュ攻め・サイン攻めにあっても笑顔を絶やさなかった毛利さん、お忙しい中、本当にありがとうございました。

画像工学研究室

電子・情報工学専攻博士後期課程2年

齊藤剛史



卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか?それぞれの職場でおおいにご活躍されていることと存じます。この場をお借りして、画像工学研究室の近況について報告したいと思います。

現在のメンバー構成は金子豊久教授、栗山繁助教授、青木公也助手の3名のスタッフと、博士3名、修士14名、学部5名、研究生1名の計23名の学生です。総勢26名と研究室開設以来の最大人数で構成されています。

画像工学研究室では、これまでにCG、仮想現実感、画像処理について研究を行ってきました。研究テーマは(1)CG応用グループ、(2)バーチャル

リアリティグループ、(3)画像認識グループ、(4)仮想人間グループ、(5)情報可視化グループに大別され、それぞれのグループが昼夜を問わずに精力的に研究を行っています。さらに研究成果の報告とプレゼン能力向上のため、学生全員が発表する週1回のミーティングと修士2年の学生を中心とした月1回のセミナーを開き、毎回熱いディスカッションが繰り広げられています。ただし、発表前夜は多くの徹夜組が頑張っているのは毎回のことですが……。研究室行事としては、設立当初から変わらず新入生歓迎会にはじまり、夏のバーベキュー大会、忘年会と3月の追い出しコンパを行っています。大人数で大いに盛り上がっています。写真は今年のバーベキュー大会(新城市桜淵公園)で撮影したものです。詳しい研究内容や、研究室の近況などは研究室のホームページ(<http://www.vcl.ics.tut.ac.jp>)にて公開しています。一度ご覧頂けたら幸いです。また豊橋近辺へ来られたときには是非研究室へもお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の更なるご活躍をお祈りしております。

システム応用研究室

情報工学課程4年

水野大輔 北川哲生

修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場で活躍されていることと存じます。

本研究室は、平成8年に前任の伊藤宏司教授から、宇野洋二教授に引き継がれました。平成9年にソニーから現福村直博講師が助手として赴任されました。平成13年には現福田浩土助手が本学博士後期課程を修了し、本研究室の助手となりました。伊藤教授のころから本研究室に所属していました片山正純講師は、福井大学に異動され現在にいらっています。宇野教授が本研究室を引き継がれてから、約40名の学生が卒業・修了していきました。

現在の本研究室の構成は、宇野教授を中心に、福村講師、福田助手の3名のスタッフと、修士8名、学部7名の計15名の学生で、総勢18名です。

さて、システム応用研究室では、計算論的神経科学の立場から、運動を実現する基本原理の神経計算モデル、感覚・運動統合、運動によるコミュニケーション原理、運動のこつを獲得する学習メカニズムに関する研究を進めています。

さらに、システムへの応用として、下肢麻痺者の歩行再建システムの構築といった医療工学への応用(藤田保健衛生大学医学部との共同研究)、柔軟でヒトに優しい知能ロボットの実現を目指しています。

また、本年度の研究室の活動として、9月に北海道大学で行われた生体・生理工学シンポジウム、鳥取大学で行われた日本神経回路学会に修士の学生が発表するなど、精力的に研究を行っています。

本研究室が所属する情報処理大講座では、研究室間の親睦を深めるため、研究室対抗のソフトボール大会を行っています。先生たちもこの日だけはジャージを着て、手に持つペンをバットにかえて学生とともに奮闘しています。過去2年は未勝利に終わりましたが、7月に行われました第3回大会において悲願の初勝利を上げることができました。

研究室恒例の研究室旅行では、三重県の伊勢に行き、伊勢神宮の参拝などを行いました。

諸先輩方の御来校を、研究室一同、心よりお待ちしております。お気軽に研究室へお立ち下さい。



信号処理研究室

電子・情報工学専攻博士後期課程1年

山口 満

修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。現在の信号処理研究室は、田所嘉昭教授を中心として、和田和千講師、野口健太郎助手、佐々木正明・技術開発センター助手の先生方と、博士学生2名、修士2年生5名、修士1年生6名、学部4年生5名の総勢22名で構成されています。和田先生は昨

年度から東工大より赴任されました。また、野口先生は本学にて博士の学位を取得され。昨年度より本研究室の助手をされています。

研究室は、大きく「デジタル信号処理」(田所、野口)と「アナログ信号処理」(和田)研究グループに分かれて研究を行っています。デジタル信号

処理グループでは、さらに「適応信号処理」「歩行者ナビゲーションシステム」「自動採譜」「音源追尾システム」のテーマで研究を行っています。それぞれの研究成果・進捗状況は週に一度のゼミで発表され、先生および学生同士が時間も忘れ熱い議論を繰り広げています。また、各グループ毎でゼミを開くなど、精力的に研究活動を行っています。

研究成果は定期的に各学会にて発表しており、昨年度は20件以上となりました。今後も研究活動に精進し、優れた成果を得られるよう研究室一同頑張る所存です。

研究室でのイベントも、春にはお花見、夏には海水浴&バーベキュー、秋には芋煮会、校内駅伝大会、豊川シティーマラソンへの参加など、盛んに行っています。また、OBとの草野球大会も毎年行っています。来年、還暦を迎えられます田所先生ですが、運動量は相変わらずすごいです。

是非、機会がございましたら、気軽に研究室をご訪問ください。皆様の卒業・修了後の体験や、在学中の貴重なお話しをして頂ければ幸いです。研究室一同、心よりお待ちしております。

情報交換研究室

情報工学専攻修士課程1年

津 持 純



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍しておられることと存じます。現在の本研究室は、今年還暦を迎えられた横山光雄教授と上原秀幸講師のスタッフ2名、博士1名、修士8名、学部5名、研究生2名の総勢18名で構成されています。最近における人事異動として、伊藤大雄助教授が昨年7月より、京都大学大学院情報学研究科に移られました。

研究室は、「移動通信技術」と「自律分散ネットワーク」の2つのグループからなり、通信グループでは、「干渉除去技術」や「多重化技術」を、ネットワークグループでは、「アドホックネットワーク」や「無線マルチメディアアクセス方式」について日夜精力的に研究に励んでおります。研究室全体での

活発なディスカッションやグループ別のゼミを通して、基礎力の定着を図るとともに着実に研究を進めています。

研究成果の一例としては、2002年9月に宮崎大学で開催された電子情報通信学会ソサイエティ大会において、7件の研究発表を行いました。また、今年度に発刊される論文誌への採録も、のべ5件（2002年9月現在）に達しております。これからも、多くの優れた研究成果を発表していきたいと思っています。

研究室の近況やメンバーについては、ホームページにて公開しておりますので、是非ご覧ください。また、豊橋近辺へお越しの際には、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。先輩方の卒業、修了後の貴重なお話を聞かせて頂けると幸いです。

第5工学系

物質工学系より

系長あいさつ

物質工学系系長 逆井基次

卒業生、修了生の皆様、元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。さて、今年、第五工学系では教職員に多くの異動がありましたのでご報告いたします。先ず、第五工学系兼任としてご活躍していただきました分析計測センターの加藤正直先生が、長岡工業高等専門学校物質工学科へ教授として、また無機材料工学研究室、前田康久先生が静岡大学工学部物質工学科へ助教授としてそれぞれ異動されました。また9月より応用有機化学研究室の西山久雄先生が名古屋大学大学院工学研究科物質化学専攻へ異動となり、ここ20年では最も動きの多い年となりました。本学で長年に渡り教育研究に携わってこられた3名の先生方が第五工学系を去られることは、新聞報道等で報じられております国立大学の再編・統合ならびに独立行政法人化を間近に控え、本学並びに本学科にとって大きな痛手となっております。しかし、新たに着任される先生方共々、益々、社会に貢献できる存在価値の高い学科、大学であるよう努力して参ります。

末筆となりましたが、未曾有の不況の中で、力強くご活躍されている卒業生、終了生の皆様のご健康と、益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

学内近況報告

第五工学系 松本明彦

卒業生、修了生の皆さん、いかがお過ごしですか。本学も創立22周年を迎え、本学出身者の年齢層も随分広がりました。80年代に大学を出られた方は勤務先の中堅としてご活躍され、90年代に出られた皆さんはより重要な仕事を任されるようになり、そして最近の卒業生、修了生は仕事を覚えていよいよ活躍し始めたところではないかと存じます。

さて、第五工学系の近況を報告します。まずは、メンバーの変化について。今年度は系長あいさつにもありますように、系ならびに分析計測センターで多くの異動がありました。転出される先生がいらっしまった一方で、4月には藤澤郁英先生が教務職員として生化学研究室に、9月には松田厚範先生が助教授として無機材料工学研究室に、加藤亮先生が助手として計測化学研究室にそれぞれ着任されました。西宮伸幸先生は本学に今年度新設された留学生センターに、堤和男先生

[工業無機化学大講座]

無機物性工学研究室：角田範義 教授、水嶋生智 講師、大北博宣 教務職員

応用物理化学研究室：亀頭直樹 教授、大串達夫 助教授、佐藤裕久 助手

無機材料工学研究室：逆井基次 教授、松田厚範 助教授、武藤浩行 助手

[工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室：神野清勝 教授、平田幸夫 助教授、齊戸美弘 助手

生化学研究室：青木克之 教授、吉田祥子 講師、藤澤郁英 教務職員

[工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室：伊藤浩一 教授、伊津野真一 助教授、曹 継壮 助手

応用有機化学研究室：岩佐精二 助教授、本山幸弘 助手

複合材料工学研究室：竹市 力 教授、松本明彦 助教授

[分析計測センター]

計測化学研究室：服部敏明 助教授、加藤 亮 助手

[留学生センター]

水素材料工学研究室：西宮伸幸 助教授

[工学教育国際協力研究センター]

堤 和男 教授

[技 官] 太田初一、齋藤年秀

[事務官] 鈴木いずみ

生は本学工学教育国際協力研究センターに移られました。両先生とも本系の教官を兼務され、教育・研究指導にあたられています。

次に特筆することは、昨年から本系の大学院修士課程で英語特別コースが始まったことです。これは海外の大学を卒業した留学生が英語で講義や研究指導を受けるためのコースです。このコースは新学年の開始が12月に設定されています。これまでの留学生の多くは、秋に来日して3月まで日本語を習ったのち、4月に修士課程に入学していましたが、このコースの開設により、12月から修士課程に入学して、勉強・研究ができるようになりました。今年の秋で開設2年目になり、M1、M2が揃いました。

社会情勢が大きく変わり、それにあわせて大学も変革を余儀なくされています。しかし、いつの時も学生の皆さんには出来る限り多くの知識・技術を身に付け、緻密に考察する力を涵養してもらいたいと思いつつ、第五工学系の教職員一同精励恪勤しています。

皆さん、現在の大学の様子を見がてら近況を話しにぜひ来学下さい。皆さんの来訪は教職員にとって非常に嬉しいものです。今後ますますのご発展を祈念します。

研究室だより

有機材料工学研究室

物質工学専攻 1年 仙 警 崇 通

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でおおいにご活躍のことと存じます。

現在の有機材料工学研究室は、伊藤浩一教授、伊津野真一助教授、曹継壯助手、博士2名、修士10名、学部4名の総勢19名（留学生3名）となっております。

現在の研究テーマを紹介します。

合成班（伊藤グループ）

- ・両親媒性PEOマクロモノマーの合成と乳化・分散重合への応用
- ・ATRP, RAFTによる制御重合
- ・電解質ポリマーと有機酸塩の相互作用

不斉班（伊津野グループ）

- ・不斉触媒反応を利用した光学活性高分子の合成
- ・光学活性高分子の立体選択性の決定法
- ・不斉配位子を導入した架橋高分子の合成、それに続く不斉反応への応用

それぞれのグループが夜間を問わず精力的に研究を行っています。週1回のゼミでは、英文の本を用いた輪講、最近の学術雑誌から各自興味のある論文を選び翻訳してみんなに説明する雑誌会、そして、各自の研究経過、問題点、今後の方針について報告しています。これから学部・修士論文の追い込みや、学会発表の準備などで忙しい日が続きますが、気を引き締めて研究を頑張っていきます。

研究室では、新入生歓迎会、物質工学系ソフトボール大会、それに向けての練習（今年は雨で中止でしたが中止でなければ2年連続優勝していたのでは？）、バーベキュー、追い出しコンパ、スポーツなどを行い、時には日々の研究を忘れ楽しんでいきます。

豊橋近辺へ来られたときには、どうぞ気軽に研究室へお立ち寄りください。また、学会等でも声をかけて頂くと大変嬉しく思います。先輩方の卒業・終了後の体験や在学中の貴重なお話をさせて頂けば幸いです。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍を研究室一同、心からお祈りいたしております。



応用物理化学研究室

物質工学専攻 1年 小 川 洋 平

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍なさっていることと存じます。現在の応用物理化学研究室は、亀頭直樹教授、大串達夫助教授、佐藤裕久助手の3名のスタッフと外国人研究者2名、博士1名、修士2年3名、修士1年6名、学部10名の総勢22名で構成されています。最近では当研究室に他大学からの入学希望の方が増え、今年も1名新たに修士課程より加わりました。

さて、研究室の近況を報告しますと以下のように大別されます。

・合成・構造解析

Ruddresden-Popper系列の化合物（ペロブスカイトも含まれます）やパイロクロア関連構造を持つ新しい希土類マンガナイト系化合物の合成を行い、その合成方法を確立しています。合成された化合物は粉末X線回折データを用いてRietveld法によって構造解析を行い、温度、酸素分圧、希土類と結晶構造の関連を調べています。

・物性

ペロブスカイトやパイロクロア系化合物はその磁氣的・電氣的・熱的性質に興味を持たれています。そこで合成された新物質について、SQUID及び磁気天秤を用いた磁化率の測定、四端子法を用いた電気伝導度の測定を行っています。さらに高温熱重量法を用いた化合物の不定比性及び分解挙動の測定、DSC法、ACC法、高温落下法を用いた熱容量測定を行っています。

・多孔性物質中のイオンの挙動

多孔性物質であるゼオライトや粘土物質中には、多くの場合陽イオンが含まれています。これらイオンの配置や挙動は、ガス吸着、触媒、電気・誘電等の特性に深く関係しています。本研究ではイオン交換、誘電、吸着、熱等の測定により、物質中のイオンの着座状態、吸着分子との相互作用、イオンの運動状態、他の特性に及ぼす影響とそのメカニズムなどについて調べています。

詳しい研究室の近況はHP（<http://sun.tutms.tut.ac.jp>）をご覧ください。また、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽に御立寄りください。研究室一同、心から歓迎させていただきます。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なる躍進・御発展を研究室一同お祈りしております。

水素材料工学研究室

物質工学課程 4年 伊達 勇介

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、大学での経験を糧に、それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。

従来、西宮研究室は「複合材料工学研究室」として機能しておりましたが、本年度より新たに「水素材料工学研究室」となりました。研究室名の変更に伴い、西宮先生は、B棟5階から4階へ、研究室も5階から2階へと移動いたしました。

さて、水素材料研究室の近況についてご報告いたします。現在、我々のグループは西宮伸幸助教授の下、博士1名、修士2年生2名、学部4年生1名、博士研究員1名の計6名で構成されています。このうち、博士課程、修士課程、博士研究員に1名ずつ留学生・外国人を迎えています。

研究室のテーマを簡潔にまとめると、メソポーラス材料の合成およびヒートポンプへの応用、多元系水素吸蔵合金の設計理論の開発、複合材料系の水素吸蔵物質（カーボンやゼオライト等で被覆など）の合成、カーボンナノチューブの水素吸蔵特性に関する研究、BN・BNナノチューブの水素吸蔵特性に関する研究などがあげられます。これらのテーマについて、それぞれが熱意と好奇心をもって研究に励んでいます。

本研究室では、報告会・雑誌会を定期的に行っております。報告会では、各自最近の研究成果を報告し、問題点や今後の研究方針について議論します。また、雑誌会では、最近の学術雑誌の中から各自興味のある論文を選び、日本語に訳してみなに説明をし、その論文について議論を行います。報告会・雑誌会を定期的に行うことで、最新の研究動向の知識が得られ、とても勉強になっています。

また、研究室には昼夜を問わず、学生の出入りがあります。朝は9時から深夜まで、4年生は卒業研究に、修士2年は修士論文に向けて、博士1年は新たな研究の発展に向けてそれぞれがんばっています。夏休みも終わりに近づき（ただ今8月下旬）、追い込みで忙しい日が続きますが、研究室一同、気を引き締めてがんばっていきましょうと思います。

研究室でのイベントも春の新歓に始まり、夏のパーベキュー、忘年会等が行われております。みな日頃の疲れを癒すため、この時ばかりは研究を忘れ楽しんでいきます。

本年度は、7月の終わりに豊橋市の岩田運動公園においてパーベキューを行いました。在校生はもちろんのこと、OBの方々も迎え、みな楽しいひと時を過ごすことができました。来年度も同じ時期に開催を予定していますので、今年来て下さったOBの方々、来られなかった方々、お誘い合わせのうえぜひご参加ください。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍をお祈りしています。豊橋に来られたときには、是非研究室にお立ち寄りください。皆様のご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。

転任教官挨拶

転任にあたって

加藤 正直

（現 国立長岡工業高等専門学校 物質工学科）

今年の4月1日より、豊橋技術科学大学から長岡高専物質工学科に転任しました。豊橋技科大にはちょうど20年ほど勤務いたしました。いろいろな事情と条件など考慮し、そろそろ転任を考えなければと思っていた矢先に、長岡高専からお誘いを受けました。「人間いたるところ青山あり」とか「鶏口となるも牛尾となるなかれ」と古人も申していますので、これを良い機会と捉え長岡行きを決めました。豊橋在任中は、多くの先生方には大変良くして頂きました。また、学生諸君には講義や研究を通じて楽しく過ごさせていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。振り返ってみますと、20年の間にはいろいろなことがあったなあと、いまさらながら感慨深いものがあります。

さて、小生の新たな任地である長岡市は新潟県のほぼ中央部に位置し、市域の中心を信濃川が南北に貫流しています。市の周りには豊かな沖積平野が広がっていますが、これが米どころとして有名な越後平野です。

長岡高専は平野の端に位置する東山連峰の麓にあります。ちなみに長岡技術科学大学は西山丘陵にあります。ちょうど信濃川をはさんで反対側になります。小生の研究室は高専の建物の3階にあり、天気がよく空気が澄んだ日には遠く平野越しに弥彦山まで見渡せます。長岡も豊橋同様に古く、由緒ある町ですが、人口は20万人弱と少ないためか、街自体は豊橋よりかなり小さく、いたるところにのんびりとした農村風景が広がっています。小生はもともとが農民の倅ですので、ちょうどこのような環境がぴったりです。

江戸時代、長岡の殿様は牧野氏だったそうです。牧野氏は徳川の譜代大名で、三河から転封されたそうですので、豊橋とは何かしら縁のようなものを感じます。ところで、長岡市は全国的には米百俵の話で有名となりました。既にご存知と思いますが、幕府側についた長岡は戊辰戦争で焼け野原となったそうで、食料にも事欠くありさまだったそうです。窮状を見かねた支藩の三根山藩は長岡藩に百俵の米を贈りました。しかし、長岡藩はその米を藩土に配って食料とするのではなく、米を売って得た代金を国漢学校の資金に注ぎ込んだという故事です。現在小泉総理は、「目の利益にこだわらず、将来のために我慢しよう」という意味で、米百俵の故事を使っています。勿論そのような意味もありますが、本来は「生活が苦しい中であっても、教

育こそが国の礎である」というのがこの故事のもう一つの大切なポイントです。総理は米百俵の話を持ち出すのが好きなようですが、もしそうなら現在の教育はどうあるべきであるのか、将来どのようにするべきかをきちんと考えていただき、むやみに教育を弄り回すのだけは止めていただきたいものだと思います。「教育は国に礎」、「百年の計」と言いますが、反対に言えば、間違った方針に基づく教育は、百年崇ることにもなりかねません。目先の勘定にばかり目を配るのではなく、遠い将来を睨んだ教育計画を願いたいものです。

高専ということになりますと、これまでの大学とは異なり、教育が主たる柱となります。いわゆる「ゆとり教育」で識者、父兄は生徒の教育水準の低下をとて心配しています。高専はそんな「教育」とは距離をおいた教育ができることと承知しています。私の任期も残り10年となりました。微力ですが最後の年月を米百俵の故事に倣って努力したいと思います。今後、大学も高専も大変な時代になるとは思いますが、ともに力を合わせてこの難局を乗り切れることを願っています。今後ともよろしくお願い致します。

「技科大で学んだこと」

前田 康久
(現 静岡大学 工学部)

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は、本年4月1日より、静岡大学工学部（浜松キャンパス）に勤務しております。転勤から約5ヶ月、研究室の立ち上げとともに浜松での新たな教育研究がスタートしました。豊橋技科大には20年在職しましたが、この間多くの方々にお世話になりましたこと、厚く御礼申し上げます。技科大での経験をぜひ今後にかしたいと思っております。以下に技科大在職中に学んだこと、感じたことなどを書かせていただきます。

在職期間が長かったこともあり、技科大ではいろいろなことを経験いたしました。私自身学んだ最も大

きなことは、いかなる状況にあっても、その状況の中で今の自分にできることを粘り強く取り組んでいくことが大事であるというごくあたりまえのことです。自分を取り巻く状況が悪く、先の展望が見えない時は、苦しんで事を行ってもまたチャンスを広げるべく新たな事を起こしてもあまり良い結果は得られないようです。自分の得意なところを現在の仕事に結びつけるように工夫し、少しでも楽しんで仕事が続けられることが後の展開に肝心なのかと思います。私の場合、時間の許す限り、学生時代から魅せられていた熱力学の理解に時間を割き、勉強を続けてきました。これは、講義や研究に大いに役立っています。大学での講義は学生が自分の将来の発展の土台となる学問領域や考え方に会う最も大切な場でありますので、熱意をもって取り組み、聞いた人の心に残るような講義を目指したいと思います。

仕事以外に打ち込めるものを持つことも大事で、仕事上のストレスから離れ、生き方に余裕が出てくるように思われます。私は、J.S. バッハの大ファンで、その音楽を日々の糧にしています。また、学生時代に始めたバイオリン演奏を現在も続けています。バイオリンを弾くのは、気分転換としてのみならず、集中力を養うことにも役立っています。プロでも演奏が難しいバッハのシャコンヌの技巧上の壁は私には途方もなく高いのですが、全曲を弾ききることを一生の夢として、その一音、一音に挑戦しています。

ところで、技科大での一番の思い出は、私と研究を一緒に行っていたいただいた学生の皆様のことです。皆、優れた素質の持ち主であり、研究テーマによっては結果が出にくく苦勞するものもあったのですが、真摯に研究に取り組み、立派な成果をだしていただきました。時折、彼等が何気なく話す言葉の中に、研究の方針となるもの、仕事の本質に係わるものが幾つか含まれていました。ありがたいことです。新川近くの居酒屋での語らいが楽しくなつかしく思い出されます。

最後に、職場での苦勞もいろいろとおありかと存じますが、同窓生の皆様方の益々のご健勝とご発展を切に念じ申し上げます。

第5 工学系同窓会収支報告

12年度分の会報発送費が計上されているのは、いくつかの系が合同で会報の発送を行っていたため、各系の内訳が分からず、その報告は13年度に入ってからであったためです。13年度からは各系個別に発送しているため、支出が明確となり計上しました。

また、ホームページ作成費は、昨年度の予算案に計上していませんでしたが、役員会で各系のホームページを作ることになったため、執行しました。同様に昨年度計上していませんでした項目も、実際の作業上必要でしたので執行しました。

全学共通謝礼立替については、13年度の物質工学系の担当が会報であり、全学共通の原稿依頼に伴う謝礼を物質工学系会計から支払ったため計上しています。

収入の部			
	平成13年度予算案	平成13年度決算	平成14年度予算案
前年度繰越金	1,530,750	1,756,550	1,801,609
会費	400,000	410,000	400,000
預金利息	800	324	400
全学共通謝礼立替	0	6,000	0
小計	400,800	416,324	400,400
収入合計	1,931,550	2,172,874	2,202,009
支出の部			
会報郵送料	160,000	164,320	170,000
タックシール作成費	0	7,200	8,000
袋詰め作業代	0	9,660	10,000
謝礼	0	12,000	12,000
名簿管理経費	15,000	15,000	15,000
ホームページ作成費	0	10,000	5,000
平成12年度分会報発送費	0	147,085	0
全学共通謝礼立替	0	6,000	0
小計	175,000	371,265	220,000
次年度繰越金	1,756,550	1,801,609	1,982,009
支出合計	1,931,550	2,172,874	2,202,009

第6工学系

建設工学系より

学内近況報告

建設工学系 三宅 醇

現在の系長は渡邊昭彦教授，系長補佐は加藤史郎教授，就職担当は本間宏教授，教務担当は河邑眞教授が勤めておられます。また昨年新設された工学教育国際協力センター（ICCEED）のセンター長を中村俊六教授が兼任しておられます。昨年は，系内の人事が随分と多かったですのですが，今年は僅かで大屋誠先生が松江高専へ帰られた（工博も取得）程度です。長く系内事務をとってくれた小柳津武さんが，岡崎の分子研へ行き，代わって柴田珠子さんが来てくれています。

昨年は，豊橋技術科学大学創設25周年ということで，記念シンポジウムが行われました（11月23日，商工会議所）。今後の日本経済・社会・建設業のあり方を巡って，東海総合研究所・水谷研治氏の講演，卒業生・川口良子，須賀敦，溝口久，岩崎義一，若林亮，永柳宏の諸氏のシンポジウム（司会：三宅）が行われました。これに合わせて，卒業生を対象とするアンケート調査のまとめも含んで立派な冊子も作られ，その後の懇親会も盛会でした。

今年に入って，大学をめぐる動きが一段と活発化し，優良大学（専攻科や学科が単位となる）選定，大学統合，独立法人化等の一連のややこしい大改革が進行中です。技科大は今年度から西永領先生を学長とし（技科大の創設時の4人組といわれた中心のキーマンで，東大・名大・名城大等を歴任の上で当大学学長に選出された），困難の時期をチャンスに転じるべく，多様な議論が進行中です。大学統合では，名大との統合が新聞報道されたりしていますが，大学の将来の詳細は今後に掛かっています。

さて，建設不況の中で，就職は一段と大変です。例年よりも建設会社の求人が減り，応募も減って

転出

大屋 誠 助手（平成14年3月末）

現職

[構造大講座]

教授：加藤史郎（系長補佐），角 徹三，河邑 眞
 助 教 授：山田聖志，三浦均也，倉本 洋（ICCEED
 助教授兼務）

助 手：中澤祥二，中治弘行

技 官：金田隆文

[環境大講座]

教授：北尾高嶺，本間 宏，
 中村俊六（ICCEEDセンター長併任）

助 教 授：松本 博，青木伸一

助 手：山田俊郎

教務職員：山本一伸

技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教授：三宅 醇，渡邊昭彦（系長），廣島康裕

助 教 授：大貝 彰，加藤彰一，泉田英雄

助 手：谷 武，細田智久

教務職員：金 広文

事 務：柴田珠子

いるようです。就職が学系として纏めて行っていた時代から，メールによって学生が個々人で応募する形へと急速なシフトがあります。いずれにせよ，従来型の建設系企業の今後はそんなに明るくなく，多様な就職先の開拓が必要となるでしょう。卒業生諸君の仕事も安定的とはいいい難く，得意技を生かす工夫が従来以上に必要な，きつい時代になってきました。同窓会の存在が多様に問われる時代になったと思いますが，わが建設系の同窓会は独自に名簿・会報を持っていて，この強みを生かして頂きたいと切望します。

新任教官より

着任のご挨拶

建設工学系助教授 三 浦 均 也

昨年10月に建設工学系の助教授として着任いたしました。生まれも育ちも北海道で、北海道大学では博士課程まで学生として過ごし、その後15年間勤務しました。その間、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学と、タイ王国・アジア工科大学で合わせて3年ほど教鞭をとりました。研究分野は地盤工学・応用力学です。各種構造物・基礎の耐震性能や地盤の地下水浸透流・熱流・変形現象に関するテーマを持っています。地震などによる被害や現象の現地実態調査と実験、解析をバランスよくこなすことを常々心がけています。これまでの経験を生かして教育・研究に努力いたしますので、よろしく願いいたします。



建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 谷 武（13期生）

建設工学同窓会幹事長の谷です。平成13年9月1日から1年間の収支決算を、下記の通りご報告いたします。建設工学同窓会の収入は、全学同窓会からの分配金と建設工学同窓会名簿売上金から成り立っており、この1年間は主に全学同窓会報の発送作業代及び郵送代として支出しました。また、昨年の11月23日に開催された建設工学系25周年記念シンポジウムに対して、同窓会からも開催費の援助を行いました。

平成13年9月1日から平成14年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
残 金	
平成13年9月1日現在	964,483
収入の部	
全学同窓会からの分配金	270,180
建設工学同窓会名簿売上金	22,500
普通預金利息	28
小 計	292,708
支出の部	
建設工学系25周年記念シンポジウムへの援助	50,000
図書カード代（同窓会報原稿執筆の謝礼7人分）	14,000
建設工学同窓会名簿データ変更作業代	15,000
建設工学同窓会名簿郵送代	790
全学同窓会報の発送作業代・郵送代	267,200
雑費（ラベルシート代、糊・ハケ代、領収書代）	4,179
小 計	351,169
残 金	
平成14年9月1日現在	906,022

研究室だより

加藤研究室の近況

加藤研究室修士課程2年 渥美文美子

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

加藤研究室は現在、博士課程2名、修士課程5名、学部2名、外国人研究員1名の計10名で加藤史郎先生、中澤祥二先生のもと日々研究に励んでいます。現在取り組んでいる研究テーマは、ラチスドーム等の座屈設計法、空間構造物の耐震性に関する研究、鉄塔の耐震補強に関する研究、粘性ダンパーの開発と構造物への適用に関する研究、鉄筋コンクリートシェルの耐力に関する研究、木造住宅の耐震性の評価に関する研究などです。各個人が先生方の指導のもと各テーマに取り組む一方、食事のあとの廊下での談笑の際に意見の交換をしたりと研究室全体が一致団結し日々、研究・勉学に励んでいます。

昨年は、大屋先生が1年間、技術開発センターの助手としておみえになりました。ゼミへの参加や研究等についてのアドバイスをいただきました。その一方で、大屋先生、中澤先生の学生時代の加藤研究室の様子なども伺うことができ、改めて加藤研究室の先輩方のご

活躍ぶりには感心いたしました。

皆様、お忙しいとは思いますが、近くにお越しの際にはお立ち寄りください。その際には、まだまだ未熟な私達にご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の更なるご活躍とご健康をお祈りしております。



泉田研究室の近況

泉田研究室修士課程1年 西山理沙

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？きっとお元気で活躍しておられることと存じます。では、泉田研究室の近況報告をさせていただきます。現在、泉田研究室は学部3名、修士5名（内留学生3名）、博士1名の計9名で構成されています。10月からは博士課程に新たに留学生が1名加わり10名となる予定です。

メンバーそれぞれが日々各々の研究に取り組み、勉学に励んでいます。留学生が多いせいか海外の建設史をテーマとする人がほとんどです。言語の違いなど大変なことも多いですが、みながんばって調査・研究を行っています。

さてこの夏、泉田先生と研究室生5名でインドネシアへゼミ旅行へ行ってきました。留学生のイスネンさんや他研究室の留学生にガイドしてもらいながら約一週間、スマトラ島のメダン - パダンを車でまわりました。主な目的はインドネシアのこの地方の伝統的な家屋を見ることで様々な集落を訪れましたが、その他にもその土地の名物料理や日本にはないフルーツを食べたりと、日本にいるだけでは決して味わえない貴重な経験をしました。しかし楽しいことばかりではなく、言葉の壁や、家や仕事の無い人々が「お金を下さい。」と言って近づいてくることは私にとって、大きなカルチャーショックとなりました。事前に読んだ本

やテレビなどでは知っていましたが、やはり実際に会ってみると非常に衝撃的で、最初は恐怖を、後からは悲しみを覚えました。何事も触れてみなければ分からない、そのことが強く身にしみた旅となりました。

旅行時だけではなく日常的に言葉の壁があるため、留学生は日本語を、日本人学生は英語を日々勉強しております。まだまだその壁はなくなりませんが、これからは頑張っていこうと思います。こんな私たちですが、いつでも待っていますので、卒業生の皆様、お近くにお越しの際には是非お立ち寄り下さい。



建設工学系 25 周年記念シンポジウムのご報告

建設工学系助手 細 田 智 久 (18 期)

1976年以来の建設工学系設立25周年を記念し、昨年11月23日(祝)に建設工学系・建設工学同窓会の共催としてシンポジウムを豊橋商工会議所にて開催いたしました。当日には、教職員等37名、同窓生64名、在校生57名の計158名の方々にご参加いただきました。そこで簡単ですが、以下にシンポジウムで行われた内容をご報告します。

1. 特別講演「あなたは21世紀をどう生きるか～低成長下の建設業の中で～」

特別講演者として水谷研治先生(前東海総研理事長, 現中京大学教授)をお招きし, エコノミストの視点から, バブル経済以降の右肩下がりの時代になった理由と今後の見通しをご講演いただきました。ご講演の中では, 国庫の財政赤字を削減するため, 少子高齢化が進展する前の国力に耐力のある段階での増税の必要性, 国民全体の生活水準を2段階下げることへの覚悟, 建設業界の価格破壊の進展と世界レベルでの淘汰の時代の到来などを熱く語っていただきました。

2. パネルディスカッション「あなたの誇れる技術は何か～21世紀に求められる技術者像～」

パネラーとして様々な分野でご活躍されている同窓生6名(1期:川口良子氏・須賀敦氏, 2期:溝口久氏・岩崎義一氏, 4期:若林亮氏, 6期:永柳宏氏)をお招きし, 学生時代の思い出, 現在までの職歴とこれからの仕事の見通し, それぞれの分野で必要とされる人物像などをお話いただきました。就職後のユニークな経験談も交えながらお話いただき, 特に在校生にとって貴重な時間となったようです。

3. 意見交換会など

シンポジウム後の懇親会では, 紺野名誉教授の挨拶・乾杯の後に各参加者が思い思いに輪を作り談笑いたしました。その後, 各研究室単位で2次会が開かれたところも多く, 今回のシンポジウムを機に同窓生の縦のつながりを強めることができたかと確信しております。



1. 特別講演者 水谷研治先生



2. パネルディスカッションの様子



3. 意見交換会の様子

第7工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

知識情報工学系系長 新田 恒雄

知識情報工学系の卒業生、修了生の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。本年度から、私、新田が系長を、高橋教授が系長補佐を務めております。まず系の近況をお知らせいたします。各大講座の教官は図のとおりです。情報科学大講座は、西尾孝治助手が転出され、相田慎助手が着任されました。また分子情報工学大講座では、栗田典之先生が助教授に昇格され、墨智成助手、Sokratis Alikhanidi助手が着任されました。

大学は、現在、法人化、統合問題など構造改革のただなかにあります。しかし一つの組織が永久に続くものではない以上、現在の状況は至極健全なものとお解すべきでしょう。当系は、IT推進の追い風を受ける好位置にありますが、職員一同、今後も研究に、教育に邁進して参りたいと思っております。

皆様には、就職、実務訓練など、ご協力をお願いする局面が多々あると存じますが、なにとぞよろしくお願い致します。最後に、研究室にも気楽に足を向けていただき、教官や後輩達とお互いの近況など歓談されることをお願い致します。

教職員一覧及び学生現員（平成14年9月現在）

[情報科学大講座]

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助教授：河合和久、市川周一
 講師：村越一支
 助手：渡邊裕司、相田 慎

[機能情報工学大講座]

教授：山本眞司、新田恒雄、堀川順生
 助教授：金澤 靖、杉浦彰彦
 講師：北崎充晃
 助手：滝沢穂高、桂田浩一

[分子情報工学大講座]

教授：阿部英次、関野秀男、高橋由雅
 助教授：船津公人、栗田典之、後藤仁志
 助手：加藤博明、墨 智成、Sokratis Alikhanidi

[事務関係]

事務官：三輪恵子
 技 官：小西和孝

[学生現員]

学 部：1年次12名、2年次17名、
 3年次56名、4年次63名
 修 士：1年次60名、2年次45名

7系同窓会収支報告

豊橋技術科学大学 7系同窓会
 三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884420

項 目	平成13年度決算
収入の部	
前年度繰越金	2,579,055
会費（各系分配金）	542,160
預 金 利 息	560
収 入 合 計	3,121,775
支出の部	
会 報 経 費	
会 報 発 送 費	81,800
会 報 発 送 作 業 費	15,200
原 稿 執 筆 御 礼	12,000
名 簿 管 理 経 費	10,000
小 計	119,000
次年度繰越金	3,002,775
支 出 合 計	3,121,775



F棟風景（提供：高橋由雅教授）

7系同窓会役員：加藤博明・洪澤博幸・山田実
 E-mail: admin-7@tut-ob.org
 URL: <http://www.tut-ob.org/dept7/>

研究室だより

情報科学大講座

増山研究室の近況

電子・情報工学専攻博士1年 酒井浩之



卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

さて、増山研究室の近況を報告したいと思います。現在、自然言語系の研究と、アルゴリズム系の研究とを2本の柱として研究を進めております。

私の属する自然言語系の研究では、インターネット上に存在する膨大な情報を活用するための文書要約に関する研究や、情報検索に関する研究を行っております。また、新しい分野として質問応答に関する研究を始めました。そして、国立情報学研究所主催の、情報検索、質問応答、文書要約の評価のためのワークショップNTCIRに毎回参加しており、成果を上げております。(特に、第2回NTCIRワークショップにおける要約タスクにおいて、当研究室は1

位を獲得しました。)

アルゴリズム系の研究では、インターネットや携帯電話などの移動体通信によって新たに出現したグラフ・ネットワーク的構造をもつ問題を主な対象として、アルゴリズムの解析や設計を行っております。特に、並列計算機を活用するための並列アルゴリズムや、ネットワーク環境を活用するための分散アルゴリズムに重点を置いています。

当研究室は、卒業するために学会発表を数回、論文投稿を少なくとも1回、行なわなければならないなどの内規があり大変ですが、やりがいがあります。そして、博士1名、修士7名、学部3名の学生に増山先生を入れて計12名の比較的小所帯ながら、研究室の雰囲気は和気藹々としております。

また、最近は研究室旅行や野外バーベキューなども行っております。(今年は、富士山に行ってまいりました。)

最後になりましたが、豊橋に来られた時には、お気軽に研究室を訪れてください。研究室一同、心よりお待ちしております。なお、研究室ホームページ <http://www.smlab.tutkie.tut.ac.jp/> において、研究についてなどを公開しておりますので、ぜひ一度、ご覧ください。

機能情報工学大講座

北崎研究室の近況

知識情報工学専攻修士2年 川端秀典

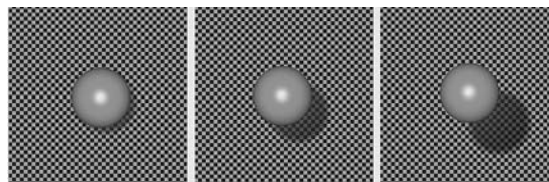
当研究室は心理物理学研究室として北崎教官の指導のもと2000年4月に開かれました。今思うと当初は何もなく結構慌ただしかったことを思い出します。その頃のお話も交えつつ、現在の北崎研究室の近況についてお話しします。

当研究室が開かれたのは、私がまだ学部4年生のときで私の学年が一期生にあたります。当時は私を含め、学部4年の男子3名、女子1名という少人数からスタートしました。最初に与えられた部屋はF1 211でした。そこには机、ロッカー以外何もありませんでした。我々はまず研究にとって欠

かせないもの、そう、PCの手配からはじめました。といっても、すぐに手に入るわけもなく、待っている間机の配置やロッカーの配置など思い思いに案を出し合い、楽しみつつもこれからの研究に意欲をみなぎらせていました。そうこうしている間に研究機材もそろって、ようやく本格的に取り組める形になりました。しかし、被験者を要する我々の研究にはあまりのんびりしている暇はなく、その年の12月には卒論の発表会が控えていました。しかし、持ち前の個々の集中力で何とか乗り切り無事全員そろって修士課程へとあがることができ

ました。

そして2001年4月、当研究室は総合研究実験棟に移り、その後も研究にかかせない暗室や大スクリーンを導入しました。暗室は写真現像用のものを少し大きくしたもので、中にPCとモニターを入れて、被験者は真っ暗な中ひたすら実験をやり続けます。そんな現在の北崎研究室は修士2年5名、修士1年6名、学部4年5名の計16名となっています。そのうち女性は2名と若干少ないのですが、とても明るく和気あいあいとした雰囲気の中で、研究活動に励んでおります。また、ゼミを通じて視覚心理学についての基礎知識を学ぶとともに、錯視の面白さを存分に味わえます。



3つのボールは違う高さにあるようにみえませんか？
右に行くほどボールが浮かんで見えるはずですが。実際には、3つとも同じ高さにボールがあるのですが、光源の位置が違うために影の位置が異なっているのです。私たちが影の情報をを用いて物体の空間的配置を知覚していることをこの錯視は教えてくれます。

分子情報工学大講座

阿部研究室の近況

知識情報工学専攻修士1年 大谷 真知子



修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いにご活躍のことと存じます。さて、研究室の近況をご報告致します。

現在の化学情報学研究室（阿部研究室）は、阿部英次教授を中心に、加藤博明助手と秘書の加藤裕子さん、修士2年4名、修士1年4名、学部生4名、の総勢15名で構成されています。現在、当研究室では大きく分けて、(1)プロトンNMRスペクトルデータベース構築に関する研究、(2)立体化学の問題解決および教育のためのプログラム開発、(3)有機化合物の匂いと立体構造との相関に関する研究、(4)タンパク質の三次元構造と機能との相関についての研究、の四つのテーマについて研究しています。このうち特にテーマ(1)では、これまで当研究室で継続的に集積してきたプロトンNMRスペクトルデータの管理・利用のためのデータベース管理システム(DBMS)を新たに構築し、WWW上で公開サービスを行なっております。これら研究の

詳細につきましては、当研究室のホームページ(<http://www.cilab.tutkie.tut.ac.jp/>)もご参照下さい。

研究室には朝は8時(?)から深夜まで学生が入りしています。今の時期、修士2年は学会発表(今年は、当研究室に関係の深い、情報化学討論会・構造活性相関シンポジウムが11月に豊橋にて開催されます。実行委員長はそれぞれ本系の船津先生と高橋先生です)に向けて日々研究に励み、修士1年、学部生はそれぞれの研究テーマで本格的に研究活動に取り組み始めています。また、昨年度から研究室内学生による自主的なプログラミング勉強会が行なわれるようになり、修士学生を講師としてJava講座、C++講座などが開かれています。昨年はC++講座の演習の中で、私たち当時の学部生でWWWによる研究室内の「物品管理システム」を作成しました。

研究室行事については5月に新入生歓迎会、7月に研究室旅行、12月に忘年会、3月に卒業生送別会があります。ここで7月に行なわれました、研究室旅行について紹介させていただきます。今年度の研究室旅行は知多半島に1泊2日で行って来ました。出発前、天候がとても気がかりでしたが、実際現地に着いてみると晴天で、海水浴日和でした。また、旅館の夕食は「エビ三昧」で、サラダからさしみまですべてエビで、存分に堪能しました。(みんな次の日の朝ご飯では、エビじゃなくてよかったとホッとしていました)

最後になりましたが、諸先輩方のご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。お気軽に研究室にお越しください。

新任教官より

Ukraine, Odessa city, and the Odessa National University

分子情報工学講座助手 Alikhanidi Sokratis



“The girl on dolphin”
The sculptural composition in front of Musical Comedy
Theater in Odessa

I wish to dedicate this short and modest article to enrich knowledge of my kind colleagues about the fine and beautiful my home country.

Ukraine is comparatively large eastern European country of 603,7 thn. km² with about 50 mln. inhabitants. Its neighbors are: Russia, Byelorussia, Moldova, Rumania, Slovakia, Poland, and Hungary. Most territory is occupied by the Eastern-European Plain boarded by Black Sea on the south and by Carpathian Mountains on the north. Vast forests are common on north and west, while east and south regions have gramineous covering predominantly. In general, the moderate continental climate together with the best Earth's soil (black soil) and water of several big rivers provide very good circumstances for agriculture. Ukraine is one of the main world producers of grain, sugar, vegetable oil, pork. Ukraine has strong heavy industry as well, in particular, in production of ferrous metals (especially tubes), alumina, and coil. Kyiv city is capital. Now its downtown is a place of exceptional splendour. Moreover, Kyiv is the origin of Orthodox Christianity with wonderful Holy places.

I have born in Odessa, which is one of the main cities and largest sea port of Ukraine. It is located on the Black Sea's north coast. Several different reasons provided my

city (which is rather young, about 200 years old only) to be very important to this region. These are fine natural conditions, presence of sea, and, no doubts, good people. To be started as trade city, it soon became important industrial (mainly petrochemical), cultural (several theaters and art colleges), and educational center.

There first and until now largest university is the Odessa National University (ONU), which was founded at 1865. Now it consists of 4 Institutes (Mathematics, Social Sciences, of Post-graduation education, and Astronomical) and 9 Departments—Historical, Philological, Roman-German Philological, Economy & Low, Biological, Geology-Geographical, Chemical, Physical, and of Under-university education. Three big other organizations, Medical and Economical Universities, as well as Law Academy, were separated from ONU before. Total number of students is about 14500, while 8000 people are self-supported (others are paid by government), and 700 foreign students. There are about 57 members of the Academy of Sciences and other Academies from total of 3100 employees (>800 Ph.D.). Main treasure of any university is undoubly library. ONU's library is one of largest and oldest library of Ukraine. It was founded at 1817, and has above 3.6 mln. volumes, whereas there are 9000 rarities of XV-XVIII centuries. ONU (<http://odnu.edu.ua/indexen.htm>) is rich also in Botanical Garden, Hydro-biological Station, Mineralogical and Paleontological (including underground reserve in karst caves) Museums.

I had pleasure to study under Dr. Kuz'min Victor on Chemical Department and earned Master and Doctoral degrees there. Now I joined the Molecular Information Systems group of TUT under leadership of Professor Yoshimasa Takahashi. And I hope that the farther inter-collaboration between Japanese and foreign educational organizations will be very fruitful.

第8工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告



エコロジー工学系系長 菊池 洋

同窓生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。エコロジー工学系 特に先生方の近況を御報告致します。

何と言っても最初にご報告しなければならないのは、昨年度、エコロジー工学系の系長として私どもをご指導下さった松為先生が平成14年4月より本学の副学長にご就任となりました。新学長の西永先生からの厚いご要請により、ご自身は「青天の霹靂」とおっしゃっておられましたが、エコロジー工学系としてはもちろん、本学全体としても真に適材適所の人事で、この大学激動の中で大活躍をしておられます。さて、青天の霹靂は、昨年度、系長補佐という肩書きを与えられたもののポーっとしていた私にこそぴったりの形容です。まだ系長補佐としての修行も不十分のところへ、いきなり降りかかってきた重責です。思えば、これまで、エコロジー工学系系長は、初代楠副学長（当時）から故大竹先生、さらには鈴木先生、笠倉先生、そして松為先生へと、その道の重鎮で大変頼りがいのある先生方が務めてこられました。そこへ、いきなり私のような若輩者がやることになってしまいました。これを初めて知った同窓生の方々も大変ご心配のことと思います。私も心配です。何しろ今の時代、国立大学は、2年後の独立法人化や、統合・再編成など、問題山積みで正に激動期なのです。そんな嵐の中で私自身は右往左往しておりますが、エコロジー工学系では立派な先生方が系をしっかり支えてくださっており、この激動の波を変革の良い機会と捉え、教育・研究の質の向上を目指して努力しようと頑張っているところです。

さて、人事異動ですが、上記の松為先生その他、昨年度木曾祥秋先生が教授へ昇格、また本年、田中三郎先生も教授へ昇格されました。また、昨年シディキ（シヤヒドサイド）先生がシカゴ大学に、教務職員の村上高広さんが石川島播磨重工業㈱に転出されました。新しいエコロジー工学系の陣容としては、理化学研究所でゲノム機能解析の先任研究員であられた浴俊彦

（えきとしひこ）先生が助教授として着任されました。また、エコロジー工学第二期生の南亘さんが金研究室の教務職員として着任されています。また、米国に長期出張で研鑽をつまえた金熙濬助教授と倉田学児助手は元気に帰国されエコロジー工学系で再び活躍しておられます。

いろいろな分野での改革の嵐の中、大学も例外ではなく今厳しい評価を受ける時代です。その評価基準の一つにどのような人材を輩出したかという点も重要な評価項目の一つとなっています。それは正に同窓生の皆様のご活躍そのものが本学の評価につながっているということです。もちろん、何も母校の評価を上げるために頑張っていたかということではありませんが、大いなるご活躍がご本人はもちろん結果として母校の評価も上げることになるということで一石二鳥ということではないでしょうか。また、何よりも卒業生の活躍は我々教官の最も喜びとするところです。末筆ながら卒業生の皆様がそれぞれの持ち場で大いにご活躍下さること、また皆様のご健康を心からお祈り申し上げます。

[生態基礎工学大講座]

教授：平石 明、菊池 洋
助教授：辻 秀人、浴 俊彦、田中照通
助手：二又裕之、松澤有希子

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰、藤江幸一、田中三郎
助教授：桂 進司、後藤尚弘
助手：安田八郎、高島和則、大門裕之

[生態環境工学大講座]

教授：北田敏廣、木曾祥秋
助教授：金 熙濬、成瀬一郎
講師：Del Carpio C. A.
助手：倉田学児、小口達夫
教務職員：南 亘

[技 官]

坂井悦子

[事 務]

辻 博樹、市橋洋子

[学生現員](平成14年4月1日現在)

学 部：1年次14名、2年次13名、
3年次61名、4年次50名、
修 士：1年次46名、2年次46名

会計収支(平成13年9月～平成14年8月)

前年度繰越金：2,492,241円

残金(平成14年9月30日現在) 2,982,790円

新任教官より



半年が経って

エコロジー工学系助教授 浴 俊彦

平成14年4月よりエコロジー工学系の助教授として着任いたしました浴 俊彦（えき としひこ）です。既に半年が経ちましたが、1年目ということもあり、研究に教育にひたすら前を向いての忙しい生活が続いています。研究室の引っ越し・整理・立ち上げ、そして初めての講義に忙殺された1学期、それに続く酷暑の夏が過ぎて、何とか落ち着いて周りの状況を見渡せるようになったかなと言ったところです。

研究に関しては、配属された3名の学生（修士1名、4年生2名）の手助けもあり、何とか研究室の形ができてきたことから、しばらく中断していたゲノム機能研究を再開すべく努力しております。本学は技術科学大学ということもあり、応用を意識した研究が求められる部分はありますが、「基礎研究なくして応用なし」の信念に従い、できるだけ長期的な視点に立った研究を中心にこれからは進めてゆくことを考えています。

以前勤務しておりました理化学研究所（埼玉県）での研究どっぷりの生活に比べ、ここでの生活での大きな違いは教師として若い学生と接する時間が多い点です。この点に関しては新たな苦労も増えましたが、実際に人材を育てる機会を持てたことは良かったと感じています。所属するエコロジー工学系には、他分野にない広範な分野の研究室が存在しています。様々な分野をカバーしなくてはならない本系学生にとっては大変だとは思いますが、これからは「前例がないからできません、やれませんが」でなく広い視野と高い専門性に基づいて「前例を自ら作ってゆく」創造的な研究者・技術者が求められるはずで、その点で、受け身の姿勢が目立つ現在の技科大生にはできるだけ、広い研究分野を積極的に学んでもらい、特に大学院では意欲的に専門研究に参加してもらいたいと感じています。若い時代の教育や研究によって人生の指針が決まることは多く、これまで自身が学び取ってきた経験と教訓を多少でも講義や研究を通して学生に伝えることができたら幸いです。どうか宜しくお願い致します。



着任のご挨拶

エコロジー工学系教務職員 南 巨

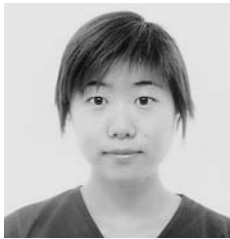
3月よりエコロジー工学系の教務職員として着任しました、南巨（みなみ わたる）です。私は本学に高専から編入して、修士課程を経て博士課程在籍時に現職に着きました。もうこれで、豊橋市には7年以上いることになりませんが、更に伸びそうです。出身は石川県なのですが、豊橋に来てとても快適な気候が、非常に住みやすい町であり気に入っています。大学が町から離れにあるのは、勉学・研究にとって非常に喜ばしい反面、社会的な活動を行いたい学生には不向きでもあります。しかし、現代社会ではやる気さえあれば新幹線ですばやく移動できる、インターネットで知りたい情報が瞬時に手に入るというメリットが、土地や家賃が安い田舎で学ぶこれからの学生にとってより、有利になるのではないのでしょうか。

“昔はよかった……”，“今の人は……”なんて言う方もいますが、時代と共に変化するのは必然であり、もちろん良い方向に変化させてゆかなければなりません。

時代が変化してゆくことと同時に、その変化の中心は個人であり、各々であることを認識して変化させる側になることが“出る杭は伸ばされる”時代に対応してゆく人間であると思っています。

私も本学がますます発展してゆくよう、その一翼を担って行きたいと気持ちを引き締めて変化して、させて行くつもりです。まだまだ若輩者ではございますが、どうぞよろしく願いいたします。

平成14年度 海外短期留学レポート



エコロジー工学専攻修士1年 坂 巻 奈津子

交換留学生として、今年の4月から5ヶ月間、ドイツ 西ザクセン応用物理大学に留学しました。西ザクセン応用物理大学はツピッカウという小さな町にあります。ツピッカウはチェコとの国境沿いにあるとても自然豊かで静かな町です。ドイツの建築様式は日本と全く異なり、そのほとんどが石造りできれいな彫刻が刻まれているために、町全体がとてもきれいです。また、町にある教会はとても大きく厳かで、初めて見た時は本当に感動しました。

西ザクセン応用物理大学は語学から物理、知識情報など幅広い学科があり、私は応用物理学の研究室にお世話になりました。ドイツは世界でも環境に力を入れている国で有名ですが、私がお世話になった研究室では、木屑を使って汚染水を浄化しようという研究を行っていました。私は主に汚染水に含まれる重金属の分析を行いました。教授や研究室の方々にとっても親切に教えていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

期待と興奮で始まった初めての海外生活でしたが、思ったほど甘くはありませんでした。1人暮らし自体初めての体験だったのですが、研究室ではチューターの英語が聞きとれず、寮では留学生全員がドイツ語で会話をしていたので、話しに入ることができませんでした。私は初め、留学生同士は英語でコミュニケーションをとるものだと思っていたので、ドイツ語は挨拶程度しか覚えていき

ませんでした。そのため、最初の頃は留学生達やルームメイトとも意思の疎通がはかれず、本当に辛い思いをしました。しかし逆に、みんなと話をしたい一心で毎日少しずつ単語を覚えていきました。彼らも言葉が分からない私に親切に色々教えてくれ、私も覚えた言葉なら間違っていようが構わず話しかけるようにしました。そうしていくうちに、お互いをだんだん理解できるようになっていき、3ヶ月ぐらいたった頃にはドイツ語だと意識せず自分の意見を言えるようになりしました。そのため、たくさんの友人を作ることができ、私にとって大きな財産になりました。

この留学では言葉の壁を思い知りしましたが、それ以上に失敗を恐れない勇気を身につけることができました。言葉を覚えるためには間違えて当然というように開き直り、まずとにかく話すことが大切だと思います。そして言葉が通じなくても笑顔をたやさないという事も大切です。この5ヶ月間のドイツ留学で学んだことを、これからの実生活で活かしていけるようにがんばりたいと思います。

最後にこの場を借りて、ドイツでお世話になったカルトハイム教授をはじめ研究室の方々、日本で支えてくれた両親と友人に心からお礼を申し上げます。



現地の友人とパーティー

研究室だより

北田研究室の近況

エコロジー工学系助手 倉田 学 児

現在の研究室の構成は、北田敏廣教授以下、私と、博士課程3名、修士課程7名、学部生3名の計15名です。研究室は、平成9年のG棟の竣工と同時に、それまでの建設工学系内の部屋より引越してきて、4階の3部屋を使用しています。当初は十分に広いと思われた空間も、年々増え続ける計算機やその周辺機器などのために既にかなり窮屈になりつつあります。

学生は、『エアロゾルグループ』『都市気候・エネルギーグループ』『三河湾環境資源グループ』の3つのグループに分かれて研究を進めています。

エアロゾルグループでは、全球を対象とした長期間の計算を可能とするエアロゾルシミュレーターの実現のために、18CPUのPCクラスターを導入して、現在プログラムの並列化の作業を進めています。この研究では、硫酸エアロゾルや炭素粒子、黄砂粒子などの地球大気中での濃度分布と粒径分布を予測することで、地球規模の気候変動に対する放射影響の寄与を推定する事を目的としています。

都市気候・エネルギーグループでは、これまで研究室で築いてきたメソスケール都市気象モデルの改良とそれを応用した研究を進めています。そのひとつは、都市域における未利用エネルギーの賦存量の推定と気候特性を考慮した有効利用の可能性の検討で、名古屋・ヨーロッパ各都市・アジア各都市などの国際比較研究を本年度より始めています。

三河湾環境資源グループは、東三河地域研究センターや建設工学系の先生方と進めている地域環境システム研究会の活動と連携して、三河湾の環境財としての価値評価の方法や、環境資源地図の作成、さらには内湾系モデルによる水質のシミュレーションなども行っています。

さて研究室内での親睦行事ですが、年1～2回の研究室旅行は、今年の夏は信州蓼科・諏訪温泉に2泊3日で行って来ました。また秋には恒例の芋煮会を愛知県民の森で行っています。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。また、お近くへお越しの際には、ぜひ研究室にもお寄りください。



第9学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

中 森 康 之

卒業生、修了生のみなさん、お元気でご活躍のことと思います。

今年度新たに留学生センターが出来ました。従来のセンター同様よろしくをお願いします。

平成13年度のスタッフは以下の通りです。新たにLevin先生が着任されました。また留学生センターには9系以外から5系西宮先生が所属され、新教官も一名着任する予定です。

ここ数年「教養」の重要性が見直されております。教養は、どのような専門分野で活躍する人にとっても、豊かに充実して生きるために不可欠なものです。私たちは、今後ますます教養教育が重要になるという確信のもと、日々工夫を重ねております。

また、授業とは違った私たちの研究活動の一端を知っていただくべく、紀要「雲雀野」を年一回発行しています。

最後に、皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

計画・経営科学講座の現況

修士課程2年 早 崎 武 幸

卒業生ならびに修士課程の皆様、いかがお過ごしでしょうか。きっとそれぞれの職場でご活躍されているものと存じます。

最初に研究室の現状について紹介させていただきます。教授陣は山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、平松登志樹助教授そして渋澤博幸講師(今年昇格)です。

計画経営所属の学生は、博士課程1名、修士課程3名、さらに来年修士課程に入学すべく研究生が1名の計5名という少数で恵まれた環境で研究を進めています。本講座は、1～8系の学生に対しては主に社会科学に関連した教養の科目を提供しています。研究の学



際化が進む中で、経済学は、工学部の生徒にとっては一見縁遠い学問のようにも思えますが、そのアプローチは工学部でも馴染み深い統計学のテクニックを駆使したり、数値解析を頻繁に利用します。意外にも工学部でも身近なテクニックが、現在では社会経済の将来予測に広く応用されており、工学部の学生も社会科学系の科目を受講することで感じているところだと思えます。工学系大学に所属していることから、社会科学系の講座でありながら、社会経済現象の数量化、数理モデルによる経済構造の現状把握とその将来予測、及び数理最適化などが、得意分野となっています。

今日的課題である環境問題についても、経済分析のフレームワークの中に環境要因を組み込み拡張することで、工学的アプローチでは取り扱えないような領域を、例えば環境汚染をお金に換算して市場の原理を適用して解決法を探るなど、幅広い視点で問題を考えることができます。近年、イギリスで始まった二酸化炭素の排出量取引などは非常に興味深いものでしょう。

本学が工学系の大学ということもあり、本講座の学生は、他の大学から直接に入学してきた生徒が大半ですが、今後も多くの方が興味を持って本講座に進んで頂けると嬉しいです。

9月から修士2年の学生は、修士論文作成にさらに忙しくなります。少ない人数ですが皆で協力し合い、実り多い研究成果と思い出を残したいと思えます。

最後になりましたが、卒業生ならびに修了生の皆様、今後更なるご活躍を研究室一同心より願っております。

教職員一覧

[人文・社会工学系]

教 授：浜島昭二(系長)、藤原孝男、宮田 譲、山口 誠

助 教 授：相京邦宏、尾崎一志、中森康之、西村政人、平松登志樹

講 師：渋澤博幸

外国人教師：David Levin

[語学センター]

教 授：小杉隆芳(センター長)、伊藤光彦、山本 淳

講 師：結城正美

教務職員：鈴木聖子

[留学生センター]

教 授：山口 誠(センター長：併)

助 教 授：加藤三保子、西宮伸幸(5系)、吉村弓子

講 師：村松由起子

[体育・保健センター]

教 授：安田好文(センター長)

助 教 授：柳原 大

[未来技術流動研究センター]

教 授：古川泰男

助 手：白川正知

第51回東海地区国立大学体育大会総合成績一覧表(男女団体別)

平成14年6月29日～30日,7月6日～7日および13日～14日の日程で,第51回東海地区国立大学体育大会が開催されました。今年度は本学が主催校であったため,多くの教職員および学生の方々が競技運営に尽力いたしました。(表紙写真(右上)はバドミントンの競技の様様)

(以下成績表一覧)

項目	順位	優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	備考
1 陸上競技	男	岐大 10	名大 8	三重大 6	静大 5	愛教大 4	名工大 3	豊技大 2	浜松医科 1	
	女	愛教大 5	名大 4	静大 3	三重大 2	岐大 1				
2 水泳	男	名大 10	三重大 8	愛教大 6	静大 5	岐大 4	名工大 3	浜松医科 2	豊技大 1	
	女	岐大 6	愛教大 5	三重大 4	浜松医科 3	名大 2	静大 1			
3 硬式野球		静大 8	名大 6	名工大・豊技大・愛教大・三重大・岐大 各3						
4 準硬式野球										雨天中止
5 テニス	男	名大 10	浜松医科 8	岐大 6	静大 5	名工大・豊技大・愛教大・三重大 各2.5				
	女	名大 10	静大 8	浜松医科 6	三重大 5	名工大・豊技大・愛教大・岐大 各2.5				
6 ソフトテニス	男	静大 8	三重大 6	愛教大・浜松医科 各4.5		名工大・豊技大・岐大 各2				
	女	三重大 5	静大 4	愛教大・浜松医科・岐大 各2						
7 バスケットボール	男	岐大 10	名大 8	三重大 6	名工大 5	浜松医科 4	豊技大 3	静大 2	愛教大 1	
	女	静大 6	愛教大 5	名大 4	岐大 3	三重大 2	浜松医科 1			
8 バレーボール	男	愛教大 10	岐大 8	静大 6	名大 5	三重大 4	名工大 3	豊技大 2	浜松医科 1	
	女	岐大 6	静大 5	名大 4	三重大 3	浜松医科 2	名工大 1			
9 卓球	男	名大 8	三重大 6	静大 5	名工大 4	岐大 3	豊技大 2	愛教大 1		
	女	愛教大 6	静大 5	名工大 4	三重大 3	岐大 2	名大 1			
10 バドミントン	男	岐大 10	名大 8	静大 6	名工大 5	豊技大 4	三重大 3	浜松医科 2	愛教大 1	
	女	三重大 10	静大 8	岐大 6	名大 5	愛教大 4	浜松医科 3	名工大 2	豊技大 1	
11 サッカー		愛教大 10	岐大 8	豊技大 6	三重大 5	静大 4	浜松医科 3	名工大 2	名大 1	
12 ハンドボール	男	名大 10	愛教大 8	岐大 6	静大 5	名工大 4	豊技大 3	三重大 2	浜松医科 1	
	女	岐大	三重大							
13 柔道		名大 5	岐大 4	名工大 3	愛教大 2	静大 1				
14 剣道	男	名大 10	岐大 8	静大 6	愛教大 5	名工大・豊技大・浜松医科・三重大 各2.5				
	女	岐大 6	静大 5	愛教大 4	浜松医科 3	名大・三重大 各1.5				
15 体操	男	岐大 4	名大 3	静大 2	愛教大 1					
	女									
16 馬術		静大 6	名大 5	名工大 4	三重大 3	岐大 2	愛教大 1			
17 空手道	男	名大 8	浜松医科 6	岐大 5	名工大 4	三重大 3	静大 2	豊技大 1		
	女	浜松医科 5	名大 4	静大 3	三重大 2	岐大 0				
18 弓道	男	静大 8	名大 6	名工大・愛教大・浜松医科・三重大・岐大 各3						
	女	三重大 8	岐大 7	名工大・愛教大・名大・静大・浜松医科 各3						
19 アーチェリー	男	名大 5	岐大 4	愛教大 3	静大・三重大 各1.5					
	女	岐大	三重大	愛教大						
20 少林寺拳法		名大 8	愛教大 6	三重大 5	静大 4	岐大 3	名工大 2	豊技大 1		
総合順位	男	名大	岐大	静大	愛教大	三重大	名工大	浜松医科	豊技大	
	女	静大	三重大	岐大	名大	愛教大	浜松医科	名工大	豊技大	

(備考)表中の大学名の右数字は得点を示す。

平成13年度 卒業・修了者就職先一覧

平成14年5月1日現在

No.	企業名等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
一般企業					
1	アース環境サービス(株)	0	1	0	1
2	(株)アートディンク	0	1	0	1
3	(株)アール・アイ・エー	0	1	0	1
4	アイカ工業(株)	0	2	0	2
5	アイシン・エイ・ダブリュ精密(株)	1	1	0	2
6	アイシン・エイアイ(株)	0	1	0	1
7	アイシン・エンジニアリング(株)	0	1	0	1
8	アイシン精機(株)	0	2	0	2
9	アイシン高丘(株)	0	1	0	1
10	愛知機械工業(株)	0	1	0	1
11	愛知県警察	0	1	0	1
12	I2テクノロジーズ・ジャパン(株)	0	1	0	1
13	アイティエス(株)	0	1	0	1
14	(株)A C C E S S	0	1	0	1
15	(株)浅井ゲルマニウム研究所	1	0	0	1
16	旭化成情報システム(株)	0	1	0	1
17	旭化成ホームズ(株)	1	0	0	1
18	旭硝子(株)	0	2	0	2
19	旭硝子マテックス(株)	0	1	0	1
20	アストラゼネカ(株)	0	1	0	1
21	アスモ(株)	0	2	0	2
22	(株)アテック	0	1	0	1
23	(株)アマノ	0	2	0	2
24	(株)アミューズメントビジョン	0	1	0	1
25	アライドテレシス(株)	0	2	0	2
26	アラコ(株)	0	1	0	1
27	(株)アルバック	0	1	0	1
28	アルプス電気(株)	0	2	0	2
29	安藤建設(株)	0	1	0	1
30	安藤電気(株)	0	1	0	1
31	アンリツ(株)	0	1	0	1
32	(株)石井鐵工所	0	1	0	1
33	石川県庁	0	1	0	1
34	石川島播磨重工業(株)	0	1	0	1
35	(株)イズミテック	0	1	0	1
36	(株)出雲村田製作所	0	1	0	1
37	(株)一条工務店	0	2	0	2
38	出光興産(株)	0	1	0	1
39	(株)伊藤建築設計事務所	0	1	0	1
40	伊藤忠テクノサイエンス(株)	0	1	0	1
41	伊東電機(株)	0	1	0	1
42	伊藤八ム(株)	0	1	0	1
43	(株)I M A G I C A	1	0	0	1
44	インクリメント・ビー(株)	0	1	0	1
45	インターネットウエア(株)	0	1	0	1
46	ウシオ電機(株)	0	1	0	1
47	エグチフューチャーズ(株)	0	1	0	1
48	(株)S M C	0	1	0	1
49	エスティ・エルシーディ(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
50	N E Cアクセステクニカ(株)	0	1	0	1
51	エヌエスエンジニアリング(株)	0	1	0	1
52	N O K (株)	1	0	0	1
53	(株)エヌジェーケー	1	0	0	1
54	N T N (株)	0	1	0	1
55	N T Tソフトウェア(株)	0	1	0	1
56	(株)N T Tドコモ中国	0	1	0	1
57	(株)N T Tドコモ東海	0	1	0	1
58	エネックス(株)	1	0	0	1
59	エプソンコーワ(株)	0	1	0	1
60	F D K (株)	1	1	0	2
61	(有)エルシイエィ応用技研	0	1	0	1
62	王子製鉄(株)	0	1	0	1
63	大井建設(株)	1	0	0	1
64	オーダス(株)	1	0	0	1
65	(株)大林組	0	1	0	1
66	(株)岡谷組	0	1	0	1
67	オムロン(株)	0	1	0	1
68	オムロンソフトウェア(株)	0	1	0	1
69	オリエンタル建設(株)	0	1	0	1
70	科学技術振興事業団	0	0	1	1
71	神奈川工科大学	0	0	1	1
72	カノーブス(株)	0	1	0	1
73	川崎重工業(株)	0	2	0	2
74	川重岐阜エンジニアリング	0	1	0	1
75	(株)川本製作所	0	1	0	1
76	キャスコ(株)	0	1	0	1
77	キャノン(株)	0	3	0	3
78	九州キャタリストリサーチ(有)	0	1	0	1
79	九州松下電器(株)	0	1	0	1
80	京セラ(株)	0	2	0	2
81	(株)キョーワ	0	1	0	1
82	極東製薬工業(株)	0	1	0	1
83	(株)くいんと	0	0	1	1
84	(株)熊谷組	1	0	0	1
85	倉敷建築工房檜村徹設計室	0	1	0	1
86	(株)クレセント	1	0	0	1
87	ケーテック(株)	1	0	0	1
88	建築設計室アーキスタジオ	0	1	0	1
89	(株)神戸製鋼所	0	1	0	1
90	光洋精工(株)	0	1	0	1
91	興和(株)	0	1	0	1
92	国産電機(株)	0	1	0	1
93	国土交通省中部地方整備局	0	1	0	1
94	コスモ・コンピュータ・ビジネス(株)	0	1	0	1
95	コベルコ建機(株)	0	1	0	1
96	小松電子(株)	1	0	0	1
97	サーラ住宅(株)	1	0	0	1
98	佐伯市役所	1	0	0	1
99	佐々木建設(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工 学 部	修 士	博 士	合 計
100	サンテックコーポレーション(株)	1	0	0	1
101	三洋化成工業(株)	0	1	0	1
102	三和油化工業(株)	0	1	0	1
103	(株)シーイーシー	0	1	0	1
104	(株)CSK	0	1	0	1
105	(株)シーティーマイ	0	1	0	1
106	J S R (株)	0	1	0	1
107	(株)シグマトロン	1	0	0	1
108	システム開発(株)	1	0	0	1
109	(株)システム計画研究所	0	1	0	1
110	SYIAH KUALA UNIV.	0	1	1	2
111	(株)シュガー・マトリックス	0	1	0	1
112	独立行政法人食品総合研究所	0	1	0	1
113	新東工業(株)	0	1	0	1
114	新日本理化(株)	0	1	0	1
115	新菱冷熱工業(株)	0	2	0	2
116	スズキ(株)	1	1	0	2
117	住商情報システム(株)	0	1	0	1
118	スミス・アンド・ネフュー(株)	0	1	0	1
119	住友電気工業(株)	0	2	0	2
120	住友電工ハイテックス(株)	0	1	0	1
121	住友電設(株)	1	0	0	1
122	セイコーエプソン(株)	0	3	0	3
123	セイレイ工業(株)	0	1	0	1
124	積水ハウス(株)	1	1	0	2
125	セコム(株)	0	1	0	1
126	(株)ゼロスポーツ	1	0	0	1
127	(株)創造科学研究所	0	1	0	1
128	(株)創夢	0	1	0	1
129	ソニー(株)	0	4	0	4
130	ソニーイーエムシーエス(株)	0	3	0	3
131	ソニー福島(株)	0	1	0	1
132	第一稀元素化学工業(株)	0	1	0	1
133	(株)第一システムエンジニアリング	0	1	0	1
134	大王製紙(株)	0	1	0	1
135	(株)大気社	0	1	0	1
136	THAI CEMENT LIMITED	0	1	0	1
137	大同メタル工業(株)	0	1	0	1
138	大日本インキ化学工業(株)	0	1	0	1
139	大日本印刷(株)	0	1	0	1
140	大日本スクリーン製造(株)	0	1	0	1
141	大日本プラスチック(株)	0	1	0	1
142	大和ハウス工業(株)	1	0	0	1
143	高島産業(株)	1	0	0	1
144	高松建設(株)	1	0	0	1
145	(株)高見沢サイバネティックス	1	0	0	1
146	竹内プレス工業(株)	0	2	0	2
147	竹本油脂(株)	0	1	0	1
148	(株)タスク	1	0	0	1
149	(株)谷口建設	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
150	T A N T A U N I V .	0	0	1	1
151	中央発條(株)	0	1	0	1
152	中部ガス(株)	0	1	0	1
153	中部テレコミュニケーション(株)	0	1	0	1
154	独立法人通信総合研究所	0	0	1	1
155	(株) 榎 屋	0	1	0	1
156	(株) ツ ム ラ	0	1	0	1
157	(株) 鶴見製作所	0	1	0	1
158	ティアク(株)	0	1	0	1
159	T I S (株)	0	1	0	1
160	(株) ディスコ	0	1	0	1
161	(株) T Y K	1	0	0	1
162	(有)テラシマ機械設計	1	0	0	1
163	(株) デンソー	0	6	0	6
164	デンソーテクノ(株)	0	1	0	1
165	東急ホーム(株)	0	1	0	1
166	東京エレクトロン九州(株)	0	1	0	1
167	東京電力(株)	0	1	0	1
168	(株) 東京三菱銀行	0	1	0	1
169	(株) 東 芝	0	4	0	4
170	東芝ソシオエンジニアリング(株)	0	1	0	1
171	東 陶 機 器 (株)	0	1	0	1
172	東北電力(株)	0	1	0	1
173	(株) トーキン	0	1	0	1
174	(株) トーケミ	0	1	0	1
175	特殊製紙(株)	0	0	1	1
176	常滑市役所	0	1	0	1
177	トステム(株)	0	1	0	1
178	凸版印刷(株)	0	1	0	1
179	轟 産 業 (株)	0	1	0	1
180	トビー工業(株)	0	3	0	3
181	(株)バコーレーション	1	0	0	1
182	(株)トヨタコミュニケーションシステム	0	1	0	1
183	(株)豊田自動織機製作所	0	4	0	4
184	(株)トヨタテクノサービス	1	2	0	3
185	(株)トヨタマックス	0	2	0	2
186	豊橋技術科学大学	0	0	5	5
187	豊橋市役所	0	1	0	1
188	豊橋飼料(株)	0	1	0	1
189	(株)NICE PARTNERS	1	0	0	1
190	(株)ナガセインテグレックス	1	0	0	1
191	中日本建設コンサルタント(株)	0	1	0	1
192	長野工業高等専門学校	0	0	1	1
193	奈良工業高等専門学校	0	0	1	1
194	社団法人新潟県環境衛生中央研究所	1	0	0	1
195	新 潟 県 庁	0	1	0	1
196	西 松 建 設 (株)	0	1	0	1
197	日産自動車(株)	0	3	0	3
198	(株)日水コン	0	1	0	1
199	日東電工(株)	0	1	0	1
200	(株)日東電工分析センター	1	0	0	1
201	(株)ニデック	0	2	0	2
202	日本アイ・ピー・エム(株)	0	1	0	1
203	日本インター(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
204	日本ガイシ(株)	0	1	0	1
205	日本化学工業(株)	0	1	0	1
206	日本鋼管(株)	0	2	0	2
207	日本システムウエア(株)	0	1	0	1
208	日本車輛製造(株)	0	1	0	1
209	財団法人日本生態系協会	0	1	0	1
210	日本綜合地所(株)	0	1	0	1
211	日本中央競馬会	1	0	0	1
212	日本電気(株)	0	3	0	3
213	日本電産(株)	0	1	0	1
214	日本特殊陶業(株)	0	3	0	3
215	日本分光(株)	0	1	0	1
216	日本特殊塗料(株)	0	1	0	1
217	家業(農業)	0	1	0	1
218	(株)野口製作所	1	0	0	1
219	野中建設(株)	1	0	0	1
220	(株)野村総合研究所	0	1	0	1
221	(株)ノリタケカンパニーリミテド	0	1	0	1
222	パシフィックビジネス(株)	1	0	0	1
223	(株)浜松ケーズ	1	0	0	1
224	林 テ レ ン プ (株)	1	0	0	1
225	パルステック工業(株)	0	1	0	1
226	ピーピージー・ジャパン(株)	1	0	0	1
227	(株)ピーユージー	1	0	0	1
228	東愛知日産自動車(株)	1	0	0	1
229	日立アプリケーションシステムズ(株)	0	1	0	1
230	日立金属(株)	0	1	0	1
231	(株)日立国際電気	0	1	0	1
232	(株)日立システムアンドサービス	1	0	0	1
233	(株)日立情報制御システム	0	2	0	2
234	(株)日立製作所	0	6	0	6
235	日立ソフトウェアエンジニアリング(株)	0	2	0	2
236	日立プラント建設(株)	0	1	0	1
237	(株)日立マイクロソフトウエアシステムズ	0	1	0	1
238	(株)ヒラタ	0	2	0	2
239	ブカレスト工科大学	0	0	1	1
240	富士機械製造(株)	1	0	0	1
241	フジクリーン工業(株)	0	1	0	1
242	(株)藤商事	0	1	0	1
243	富士通(株)	0	1	0	1
244	(株)富士通大分ソフトウェアラボラトリー	1	0	0	1
245	(株)富士通コンピュータテクノロジ	1	1	0	2
246	(株)富士通システムソリューションズ	0	2	0	2
247	(株)富士通ゼネラル	0	1	0	1
248	富士通デバイス(株)	0	1	0	1
249	富士通テン(株)	1	0	0	1
250	(株)富士通東北システムエンジニアリング	0	1	0	1
251	(株)富士通長野システムエンジニアリング	0	1	0	1
252	富士通VLSI(株)	1	0	0	1
253	(株)富士通プライムソフトテクノロジ	0	2	0	2
254	富士電機(株)	0	2	0	2
255	富士電機システムズ(株)	1	0	0	1
256	フタバ産業(株)	1	0	0	1
257	(株)復建技術コンサルタント	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
258	(株)フューチャー・テクノロジー	0	1	0	1
259	(株)フロム・ソフトウェア	0	1	0	1
260	PETRONAS MALAYSIA	1	0	0	1
261	防 衛 庁	0	1	0	1
262	ポププリベット・ファスナー(株)	0	0	1	1
263	本田技研工業(株)	0	2	0	2
264	松下精工(株)	0	1	0	1
265	松下通信工業(株)	1	1	0	2
266	松下電器産業(株)	0	6	0	6
267	マツダ(株)	0	2	0	2
268	マツダ産業(株)	0	1	0	1
269	(株)松村組	0	1	0	1
270	三井化学(株)	0	2	0	2
271	三菱自動車エンジニアリング(株)	0	1	0	1
272	三菱重工業(株)	0	2	0	2
273	三菱スペース・ソフトウェア(株)	0	1	0	1
274	三菱電機(株)	0	3	0	3
275	三菱電機エンジニアリング(株)	0	1	0	1
276	三菱電線工業(株)	0	1	0	1
277	南日本酪農共同(株)	1	0	0	1
278	美濃窯業(株)	0	1	0	1
279	MIRYANG NATIONAL UNIV.	0	0	1	1
280	明治薬品(株)	1	0	0	1
281	(株)メイテック	0	1	0	1
282	(株)メイテックコム	0	1	0	1
283	(株)メルコ	0	1	0	1
284	(株)森組	0	1	0	1
285	(株)モリック	2	0	0	2
286	森永製菓(株)	0	1	0	1
287	矢崎総業(株)	0	2	0	2
288	矢作建設工業(株)	0	1	0	1
289	(株)ヤマウラ	1	0	0	1
290	ヤマコ(株)	1	0	0	1
291	(株)山武	0	1	0	1
292	ヤマハ(株)	0	2	0	2
293	ヤマハ発動機(株)	0	1	0	1
294	ヤマハリビングテック(株)	0	1	0	1
295	山本貴金属地金(株)	1	0	0	1
296	輸送機工業(株)	0	1	0	1
297	横浜ゴム(株)	0	1	0	1
298	米子市役所	1	0	0	1
299	(株)リードレックス	0	1	0	1
300	理化学研究所	0	0	2	2
301	(株)リコー	1	0	0	1
302	ロム(株)	0	1	0	1
303	和歌山精化工業(株)	0	1	0	1
304	ワシントンホテル(株)	1	0	0	1
	合 計	65303	19387		
	社会人卒業・修了者の復職を除く。				
計	就 職 者 (男 子)	49284	18351		
	同 (女 子)	1619	136		
	復 職 者	22	59		
	合 計	67305	24396		

卒業・修了生へ祝辞を贈りました。平成14年度も例年通り行う予定です。

3. クラブ活動への援助

学友会を通じて、第25回豊橋野球協会旗争奪軟式野球大会にて準優勝という好成績を収めた軟式野球部に5万円のクラブ奨励金を、情報処理センターでの講習会における講師担当などの活発な活動を行っているコンピュータクラブに5万円のクラブ援助金を贈りました。平成14年度は援助クラブ数を増やす方向で検討しています。

4. 技科大祭への援助

平成13年10月7日から8日にかけて盛大に行われた第23回技科大祭に対して、学友会を通じて10万円の資金援助を行いました。平成14年度も例年通り援助を行う予定です。

5. 役員会の開催

平成14年4月20日に、豊橋技術科学大学D-714会議室にて役員会を開催し、本年度の活動予定などについて話し合いました。議事録は<http://www.tut-ob.org/gijiroku/H14gijiroku.pdf>をご覧ください。

平成14年度同窓会役員（平成14年9月現在）

会長：後藤泰男（株式会社INAX）
副会長：佐藤裕久（豊橋技科大物質工学系）
事務局：早坂太一（豊橋技科大情報工学系）

1系役員（admin-1@tut-ob.org ホームページ担当）：感本広文，関下信正
2系役員（admin-2@tut-ob.org 会計担当）：澁谷秀雄，矢野賢一，赤堀俊和，森田繁樹，戸高義一
3系役員（admin-3@tut-ob.org 会報担当）：見目喜重，村本裕二，稲田亮史，西村一寛
4系役員（admin-4@tut-ob.org 事務局担当）：高橋港一，福田浩士，野口健太郎
5系役員（admin-5@tut-ob.org 援助活動担当）：大北博宣，武藤浩行，齊戸美弘
6系役員（admin-6@tut-ob.org 名簿担当）：山本一伸，細田智久
7系役員（admin-7@tut-ob.org 総会・役員会担当）：加藤博明，渋谷博幸，山田 実
8系役員（admin-8@tut-ob.org 総会・役員会担当）：南 亘，松澤有希子
名誉顧問：西永 頌（豊橋技科大学長）

会費の納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費（5,000円）または、終身会費（10,000円）が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305
加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 773671
加入者名 豊友会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4系同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となっており返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局（TEL: 0532-47-0111）へご一報くださるようお願い申し上げます。また、ホームページ上（<http://www.tut-ob.org/address.htm>）でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用ください。

クラブ活動への援助報告

本年も、本学クラブ活動の活性化を支援する目的で、各クラブからの申請に基づき、クラブ奨励金（一件）とクラブ援助金（二件）を以下のように決定し授与いたしましたのでご報告いたします。

クラブ奨励金：ロボコン同好会 クラブ援助金：陸上競技部、吹奏楽団

ロボコン同好会は、国内外での大会で常に優秀な成績を残し本学プレゼンスの向上に寄与しております。また、陸上競技部は、多くの場合、大会登録料を自己負担しており部員個人負担が増大していること、吹奏楽団は楽器の老朽化により修理、メンテナンスがままならず活動に支障をきたしていること、等を考慮して決定いたしました。会員の皆様にもご理解、ご協力をいただきながら、クラブ活動の活性化のために引き続き援助を行って参ります。（支援活動担当者一同）

陸上競技部

物質工学課程 4年 山本 憲 鋭

この度は陸上競技部に同窓会よりクラブ援助金を頂き、大変ありがとうございます。現在、我々陸上部は修士5名、学部生16名の合計21名（内3名がマネージャー）で、平日の16：30以降が主な活動時間となっています。陸上競技は個人種目が主ですが、とはいえチームとしてのまとまりを持つようにと、できるだけ皆で集まって練習に励んでおります。

陸上競技は春から秋にかけてのトラックシーズンと秋から春先のロードシーズンに大別され、トラックシーズンは春の学生選手権（インカレ）に始まり東海地区国立大学総合体育大会、各種の選手権大会を経て秋季インカレで幕を閉じます。ロードシーズンは滋賀県甲賀町で行われる10時間耐久リレー駅伝（昨年は5時間の部第5位）を皮切りに開学記念駅伝（昨年度優勝）や、豊橋中日マラソンなどがあります。

できるだけ多くの大会に参加したい、一つでも上の順位を狙いたいと常々思っておりますが、なかなか練習時間を確保することも能わず、その上これからのシーズンは少しずつ気温も下がり、さらに駅伝、マラソンと硬い道路を走ることが多くなるので怪我の危険性も増してしまいます。その折にクラブ援助金を頂けたことは、ただ感謝するばかりです。同窓会より頂いた援助金は、怪我の予防やその対応、また消耗備品の補充等に当てさせていただき所存です。

当部の活動に関心をお持ち下さったこと、なおかつ援助して頂いたことに重ねて感謝いたします。また活動の一端は陸上部公式ホームページ（大学HPよりリンクしています）等でも報告いたして行きたいと思っております。これを機に、より一層研鑽していくことを誓います。ありがとうございました。

吹奏楽団

エコロジー工学課程 4年 宮内 良 樹

豊橋技術科大学吹奏楽団です。私達は現在23人で活動しております。主な活動内容は入学式、卒業式での祝賀演奏、定期演奏会、新入生歓迎パーティー、技科大祭での演奏などです。また、学内だけでなく、愛知大学、人間環境大学との合同演奏会や、東海地区の大学の吹奏楽団体が加盟する東海学生吹奏楽連盟主催の合同演奏会への参加など、活発に活動しております。

この度、このような私どもの活動にご理解を賜り、クラブ奨励金を贈呈していただき心より感謝申し上げます。今年度、多数の新入生が入団しましたが、団所有の楽器の多くが老朽化またはそれに伴う破損のために、新入団員が使用できる楽器が足りなくなっておりました。そのような中、新入団員に良い楽器で練習して欲しいと思い、この奨励金を楽器の修理に使わせて頂きました。

最後に、当団では、来る10月20日（日）に第18回定期演奏会をライブポート豊橋にて開催致します。まだまだつたない演奏ではございますが、音楽に興味のある方、是非お誘いあわせの上、ご来場下さい。（写真は第17回定期演奏会）

今後より一層、活発にサークル活動を行って参りますので、皆様ご協力の程お願いいたします。



ロボコン研究会

知識情報工学課程 4年 丸山 裕

テレビでおなじみのロボットコンテストに出場するロボットを製作しているのは、ロボコン同好会です。そのロボコンも、今年度のロボットコンテストから、ABUアジア・太平洋ロボットコンテストとなり、今までのロボットコンテストにあたるものは、アジア大会の予選となりました。そして、3月の予選の結果、優勝し、日本代表として8月末にある国際大会に出場することになりました。国際大会では、準決勝で惜しくも中国に敗れましたが、ベスト4に贈られる敢闘賞とアイデア賞の二つを受賞しました。

ロボットコンテストが国際化していく中で、ロボコン同好会が、技科大の代表から日本の代表となり、大いに活躍していくことを期待していただきたいと思います。



同窓会平成13年度収支報告および平成14年度予算案

項 目	平成13年度予算案	平成13年度決算	平成14年度予算案
収入の部			
前年度繰越金	8,792,931	8,792,931	9,429,153
入 会 金	2,150,000	2,135,000	2,150,000
会 費	4,300,000	4,220,000	4,300,000
預 金 利 息	7,000	2,652	1,000
名 簿 代 金	-	11,860	-
同窓会報発送代行費用	800,000	0	-
終身会費返還立替金	-	10,000	-
小 計	7,257,000	6,379,512	6,451,000
収 入 合 計	16,049,931	15,172,443	15,880,153
支出の部			
会 報 経 費	635,920	906,800	907,920
(印 刷 代)	(600,420)	(900,420)	(900,420)
(原 稿 執 筆 御 礼)	(34,000)	(6,000)	(6,000)
(会 員 以 外 へ の 会 報 発 送)	(1,500)	(0)	(1,500)
(会 長 へ の バ ッ ク ナ ン バ ー 発 送)	-	(380)	-
役 員 会 経 費	30,000	17,000	30,000
(役 員 手 当 て)	(30,000)	(17,000)	(30,000)
卒 業 記 念 パ ー テ ィ ー 援 助 金	250,420	250,420	250,420
技 科 大 祭 後 援 金	100,420	100,420	100,420
庶 務 経 費	100,000	62,560	100,000
W e b 関 連 経 費	100,000	68,460	47,880
会 員 へ の 会 費 返 還	-	15,000	-
同窓会報発送代行費用	800,000	0	-
各系への会費配分金	4,300,000	4,220,000	4,300,000
会費直接徴収手数料	-	1,000	-
小 計	6,417,180	5,743,290	5,837,060
次 年 度 繰 越 金	9,632,751	9,429,153	10,043,093
支 出 合 計	16,049,931	15,172,443	15,880,153

* 豊橋技術科学大学同窓会会則 *

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問 (豊橋技術科学大学学長)
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名(庶務担当)
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員は過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員は議長は、出席している役員は総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認められた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。



同窓会事務局より会員の皆様へのお願い

最近、本学同窓会会員に対して『各種の勧誘および問い合わせ』が頻繁になされているとの情報が入っております。特に『同窓生名簿』等の作成のための情報提供依頼等については、その名称が紛らわしくあたかも本学同窓会と関連がある様な誤解を招くもの、更には電話連絡の際に偽名を名乗っていると思われる悪質なもので発生しております。

本学同窓会事務局では、名簿データ等は厳重に管理しており、これまで部外者への名簿の譲渡や貸し出しは一切行っておりません。従いまして、これらの勧誘および問い合わせには本学同窓会事務局は一切の関係がないことをお断りしますとともに、会員の皆様におかれましても個人情報の管理には十分に御注意いただきます様、お願い申し上げます。

豊橋技術科学大学同窓会事務局